

令和 6 年度播磨町部活動地域移行（地域展開）
アンケート調査結果報告書

令和 7 年 8 月

播磨町教育委員会

調査の概要

1 調査目的

土・日・祝日の部活動を段階的に地域に移行するというスポーツ庁の方針を踏まえ、現状の部活動の実態や関係者の意向について適切に把握し、部活動の円滑な地域移行（地域展開）をめざして、今後の施策の基礎資料とするため調査を実施する。加えて、地域移行に伴う部活動環境の変化が、当事者である生徒たちに及ぼす影響を心理的側面から捉え、地域移行の効果検証を行う。

2 調査主体

播磨町教育委員会

3 調査協力

流通科学大学

（調査主担当）与那覇秀勲（人間社会学部人間健康学科 講師）
 （調査協力者）関 和俊（人間社会学部人間健康学科 教授）
 山口 志郎（人間社会学部人間健康学科 教授）
 北村 裕美（人間社会学部人間健康学科 教授）
 内田 遼介（人間社会学部人間健康学科 准教授）
 山本 隼年（人間社会学部人間健康学科 准教授）
 青山 将己（人間社会学部人間健康学科 准教授）
 高橋 宏斗（人間社会学部人間健康学科 講師）
 魚田 尚吾（人間社会学部人間健康学科 講師）

4 調査方法

WEB 調査

- 小中学生：個人配付のタブレットからの回答
- 教 職 員：個人配付のタブレットからの回答
- 保 護 者：QRコードの読み取りによるスマートフォン等からの回答

5 調査期間

令和6年12月16日（月） ～ 令和6年12月25日（水）

6 回答数および回答率

教員	総数	小学校児童	4年生	5年生	6年生	合計	小学校保護者	4年生	5年生	6年生	合計
播磨小	25	播磨小	75	82	80	237	播磨小	25	34	51	110
蓮池小	36	蓮池小	55	88	111	254	蓮池小	38	56	53	147
播磨西小	18	播磨西小	57	62	49	168	播磨西小	8	10	4	22
播磨南小	20	播磨南小	31	62	66	159	播磨南小	33	50	29	112
播磨中	18	合計	218	294	306	818	合計	104	150	137	391
播磨南中	19	回答率	78.3%				回答率	35.7%			
合計	136	中学校生徒	1年生	2年生	3年生	合計	中学校保護者	1年生	2年生	3年生	合計
回答率	66.3%	播磨中	156	172	172	500	播磨中	28	30	14	72
		播磨南中	132	119	123	374	播磨南中	63	61	42	166
		合計	288	291	295	874	合計	91	91	56	238
		回答率	85.6%				回答率	25.8%			

7 調査項目

調査対象		調査内容	カテゴリー
中学生	属性	①身長 ②体重	
	生活習慣	①朝食 ②運動時間 ③睡眠時間 ④勉強時間	
	所属	①部活動所属経験 ②地域クラブ所属経験 ③現在の実施種目	
	ストレスの頻度（5項目）	①全然なかった ②たまにあった ③ときどきあった ④よくあった	
	ストレスの度合い（5項目）	①全然嫌でなかった ②少し嫌だった ③かなり嫌であった ④非常に嫌であった	
	動機づけ （スポーツ実施者26項目、文化種目実施者20項目）	①全くあてはまらない ②当てはまらない ③どちらともいえない ④当てはまる ⑤非常に当てはまる	
	部活動・地域クラブ活動を通して得たいこと（9項目）	①そう思わない ②あまりそう思わない ③ややそう思う	
	部活動の問題点（11項目）	④そう思う ⑤分からない	
	指導者の希望	①学校の先生 ②地域の指導者 ③どちらでもよい	
	指導者の希望理由 部活動に対する意見・要望	自由記述	
小学生	所属	①地域クラブ所属状況 ②活動種目 ③部活動で希望する種目	
	部活動に対する期待（8項目）	①そう思わない ②あまりそう思わない ③ややそう思う ④そう思う ⑤分からない	
	部活動に対する意見・要望	自由記述	
保護者	所属	①子の部活動・地域クラブの所属経験 ②子の部活動・地域クラブの経験種目 ③子の地域クラブの活動種目	
	部活動に対する期待（10項目）	①そう思わない ②あまりそう思わない ③ややそう思う	
	部活動の問題点（9項目）	④そう思う ⑤分からない	
	地域移行（展開）の賛否	①賛成である ②どちらかと言えば賛成である ③どちらかと言えば反対である ④反対である ⑤わからない	
	月会費の受容価格帯	①高いと思う価格 ②安いと思う価格 ③高すぎる価格 ④安すぎて疑わしい価格	
	地域クラブ活動に対する不安	選択式および自由記述	
	地域クラブの運営の重要度（18項目）	①とても重要である ②重要である ③どちらともいえない ④重要でない ⑤全く重要でない	
	部活動に対する意見・要望	自由記述	
教員	属性	①年代	
	指導する部活動の種目経験	①経験種目である ②経験種目でないが指導ができる ③経験種目でなく自信がない ④部活動に関わっていない	
	年間の学校外での活動日数	①0日 ②1日～5日 ③6日～10日 ④11日～20日 ⑤21日～30日 ⑥31日以上	
	部活動の意義（10項目）	①そう思わない ②あまりそう思わない ③ややそう思う ④そう思う	
	部活動の問題点（10項目）		
	地域移行（展開）の賛否	①賛成である ②どちらかと言えば賛成である ③どちらかと言えば反対である ④反対である ⑤わからない	
	地域移行（展開）への参画意向	①参画する ②参画しない ③現時点では分からない	
	地域クラブの運営の重要度（18項目）	①とても重要である ②重要である ③どちらともいえない ④重要でない ⑤全く重要でない	
	指導希望種目	自由記述	
	部活動に対する意見・要望		

結果の要約

1 中学生

- 生活・運動・学習習慣について、朝食は約 9 割が「毎日食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した。1 週間の運動時間は 1 年生が 9.6 時間で最も多く、3 年生が 4.5 時間と最も少なかった。部活動からの離脱が影響していると考えられる。1 日の睡眠時間は 1 年生が 7.7 時間で、学年が上がるほど減少する傾向にあった。1 日の勉強時間は 3 年生が最も多く 71.5 分であった。
- 部活動の所属経験は 8 割以上がある一方で、地域クラブの所属経験は約 3 割に留まっている。
- 実施経験種目について、部活動では「ソフトテニス」、「サッカー」が多く、地域クラブでは「サッカー」、「バスケットボール」が多かった。今後、地域クラブで実施してみたい種目は「バドミントン」や「e スポーツ」といった現在の部活動にはない種目が多く挙げた。
- 部活動や地域クラブ活動のストレス頻度やストレスの度合いが最も高い項目は、「勉強との両立が難しくなった」であった。
- スポーツ種目実施者の活動動機は、「必要最低限の体力はつけた方が良くから」、「運動をしないと、体力が落ちてしまう感じがするから」といった体力の維持・向上を主な目的としていた。
- 文化種目実施者の活動動機は、「他の人ができることを自分ができないのは恥ずかしいから」と回答した割合が最も高く、周囲ができることを自分も同じようにできるようになりたいという外発的動機づけが高い結果となった。
- 部活動および地域クラブを通して得たいことは「中学校生活を豊かにしたい」「試合で勝つ喜びを味わいたい」と回答した割合が高かった。
- 部活動の問題点としては、過度な練習による学業への影響を問題視していた。
- 指導者の希望は、全体では「地域の指導者 (22.1%)」「学校の先生 (21.8%)」がほぼ同程度であった。所属別にみると、部活動に所属している生徒は「学校の先生 (23.7%)」を希望する割合が多く、一方で、地域クラブに所属している生徒は「地域の指導者 (55.9%)」が「学校の先生 (4.4%)」を希望する割合を大幅に上回った。現在の所属によって、指導者の希望に大きな違いがあった。

2 小学生

- 地域クラブに所属している割合は全体で 53.3%であり、小学 4 年生が 63.3%と最も多かった。
- 現在の活動種目は「水泳 (n = 81)」が最も多く、次いで「サッカー (n = 63)」、「バスケットボール (n = 57)」と続いた。
- 中学校での活動希望種目は「バドミントン (n = 152)」、「e スポーツ (n = 145)」、「バスケットボール (n = 142)」が多かった。
- 部活動への期待は「中学校生活を楽しく豊かにしたい (94.3%)」、「スポーツ (競技) や文化・芸術などを楽しみたい (87.1%)」であり、楽しい活動にしたいという期待が表れていた。

3 保護者

- 部活動に対する期待としては、「中学校生活を楽しく豊かであってもらいたい (83.3%)」が最も多かった。
- 部活動の問題点は「専門的な実技指導が受けられない (36.2%)」が最も高く、指導者に対する問題意識が明らかになった。
- 地域移行 (展開) に対する賛否は賛成が 77.8%であり、概ね肯定的に捉えていた。
- 地域クラブ活動の月会費の受容価格帯は 1,480 円～3,406 円であった。一方でサービスの質 (指導体制、練習頻度等) や種目に受け入れられる価格が変動しうることには留意が必要である。
- 地域クラブ活動に対する不安としては、送迎等の身体的・時間的負担の増加や円滑な地域クラブの運営への懸念がみられた。
- 地域クラブの運営においてはメンバー間での情報共有や指導者の配置や専門的な資格といった人材の質を重要視していた。

4 教員

- 現在指導している部活動の種目の経験について、「経験種目である」と回答した教員の割合は 43.2%である一方、「経験種目ではなく自信がない」と回答した割合は 24.3%に上り、指導の質や教員の負担が懸念される。
- 年間の学校外での試合や遠征に費やしている日数は「31 日以上 (26.7%)」が最も多く、教員の負担になっていることがうかがえる。
- 部活動の意義としては、クラスや学年を超えた交友関係が広がることを期待していた。
- 部活動の問題点は希望以外の種目を担当する顧問が増えていることであり、専門外の競技や種目を指導していることへの問題意識が表れている。

- ・ 休日の部活動の地域移行（展開）には 94.2%の教員が賛成の意向を示した。一方で、平日は休日に比べおよそ 2 倍の教員が反対しており、休日の地域移行には賛成であるが、平日は反対である教員が一定数いることが分かる。
- ・ 地域移行（展開）への参画する意向の教員はわずか 8%であった。兼職兼業に関する制度の周知を図るなど、教員への働きかけが必要である。
- ・ 地域クラブ活動における指導希望する種目は「バスケットボール（n = 3）」が最も多かった。
- ・ 地域クラブの運営においてはメンバー間での情報共有や適切や会計処理といった組織のガバナンスに関わる点を重要視していた。

調査結果

1 中学生調査

(1) 身長

平均身長は、1年生が $155.4 \pm 7.3\text{cm}$ 、2年生が $160.3 \pm 8.8\text{cm}$ 、3年生が $163.9 \pm 8.3\text{cm}$ であった。

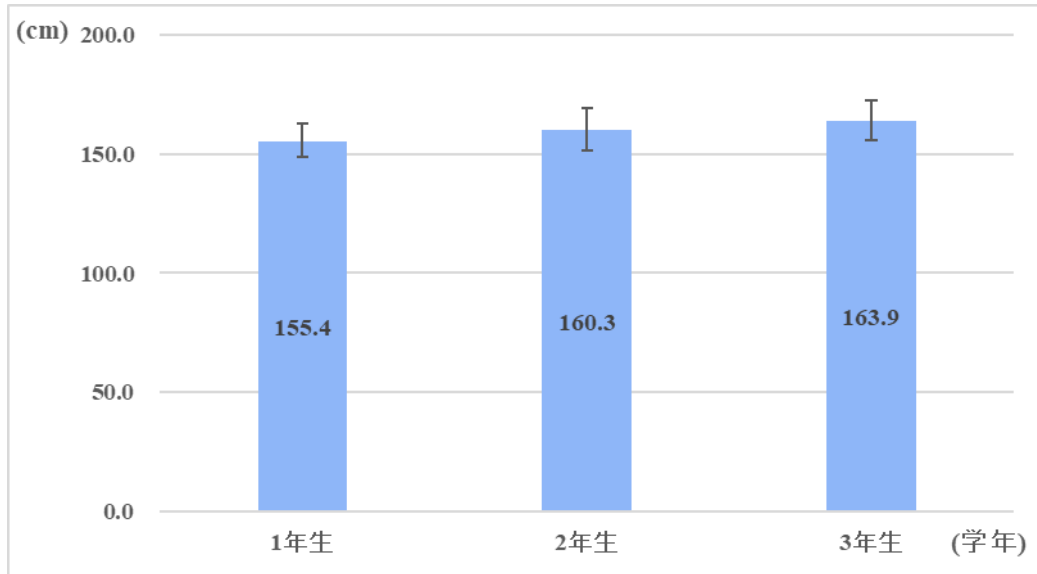


図 1. 学年ごとの平均身長

(2) 体重

平均体重は、1年生が $44.8 \pm 7.2\text{kg}$ 、2年生が $48.4 \pm 7.9\text{kg}$ 、3年生が $52 \pm 8.0\text{kg}$ であった。

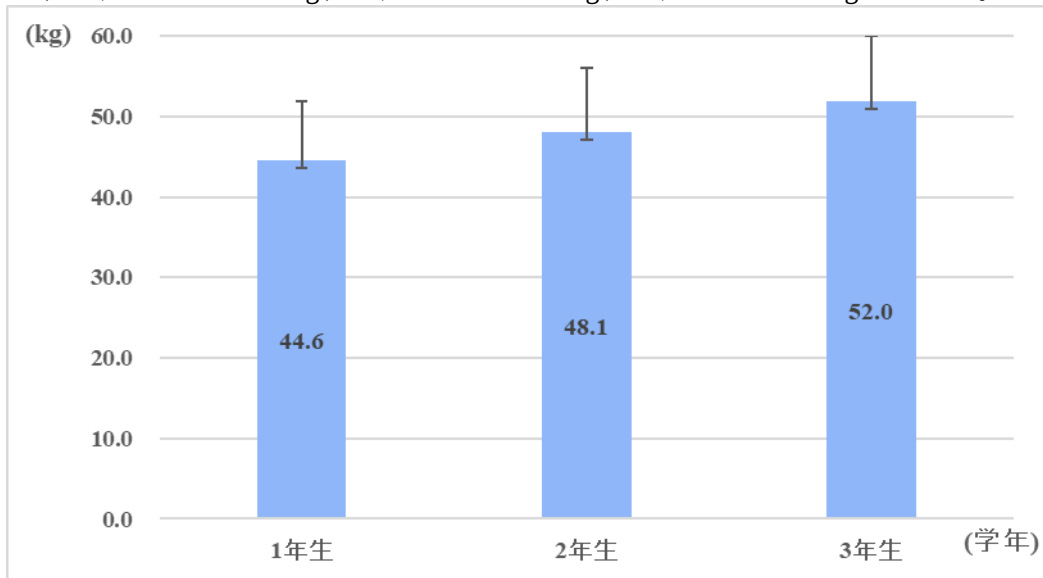


図 2. 学年ごとの平均体重

(3) 朝食の摂取状況

朝食を「毎日食べている」又は「どちらかといえば食べている」と回答した生徒は、約9割であった。

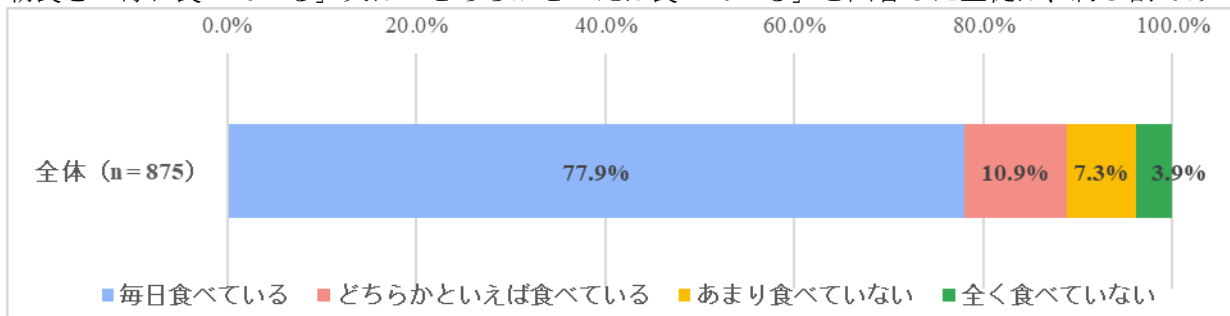


図 3. 朝食の摂取状況

(4) 1 週間の運動時間

1 週間の運動時間は、1 年生が 9.6 時間で最も多く、3 年生が 4.5 時間と最も少なかった。3 年生は 1 年生および 2 年生と比べて半分以下の運動時間であり、部活動からの離脱が影響していると考えられる。

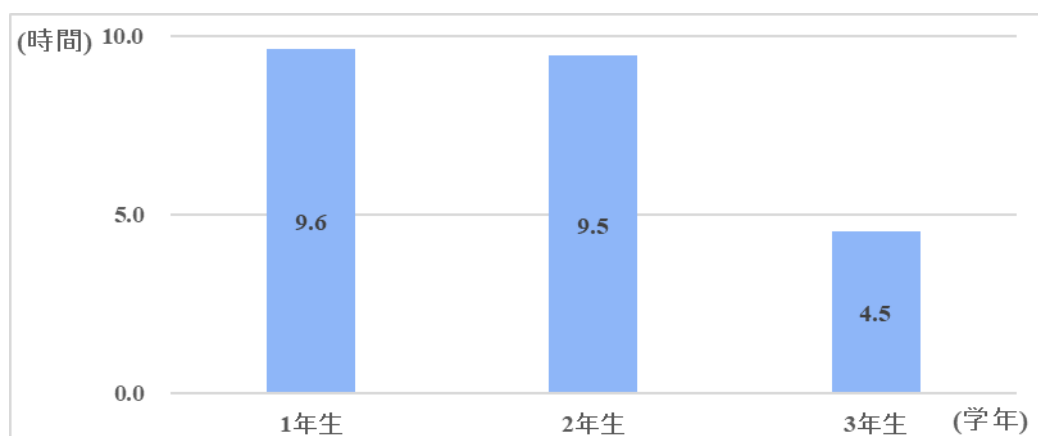


図 4. 1 週間の運動時間

(5) 1 日の睡眠時間

1 日の睡眠時間は、1 年生が 7.7 時間と最も多く、3 年生が 6.9 時間で最も少なかった。

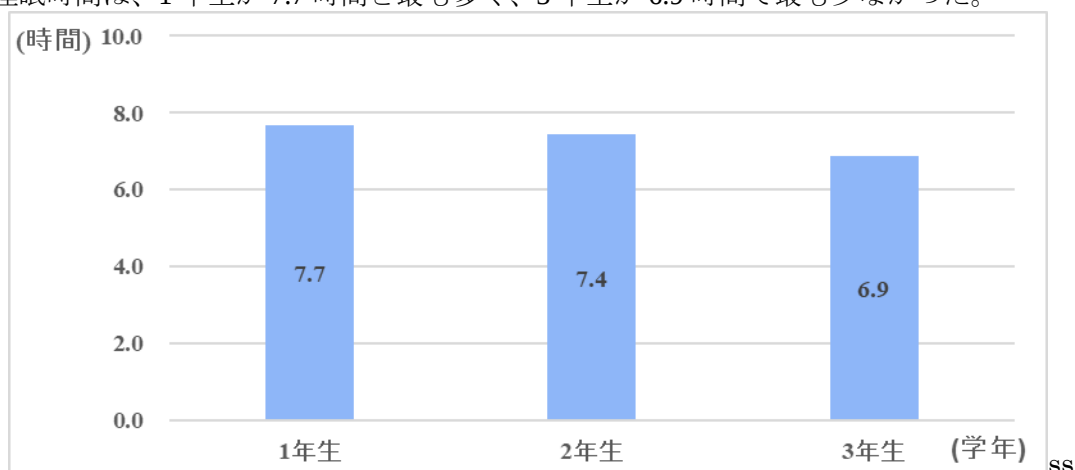


図 5. 1 日の睡眠時間

(6) 1 日の勉強時間

1 日の勉強時間は 3 年生が 71.5 分で最も長く、1 年生および 2 年生の勉強時間を大きく上回った。

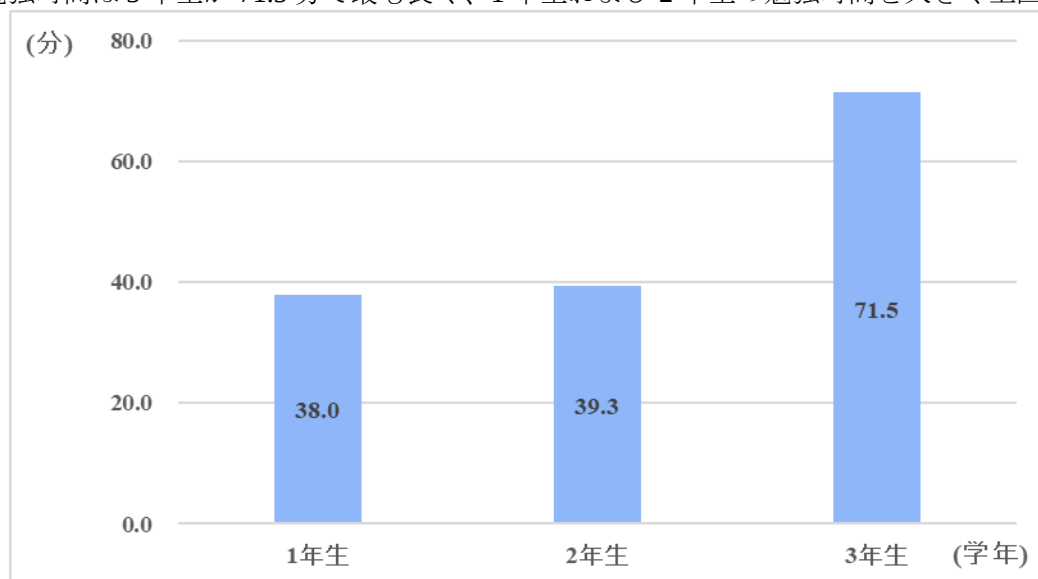


図 6. 1 日の勉強時間

(7) 部活動と地域クラブの所属経験

部活動の所属経験がある（現在所属している又は過去に所属していた）生徒の割合は、全体で 84.8%であった。学年別で最も多かったのは 3 年生で 87.8%であった。

地域クラブの所属経験がある（現在所属している又は過去に所属していた）生徒の割合は、全体で 31.4%であり、学年別では 2 年生が 39.3%と最も多かった。

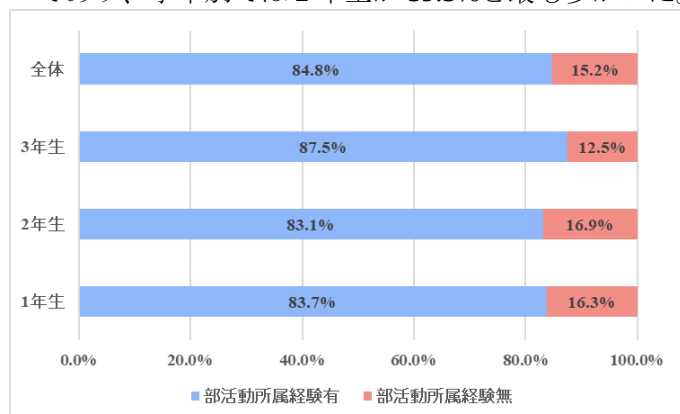


図 7. 部活動の所属経験

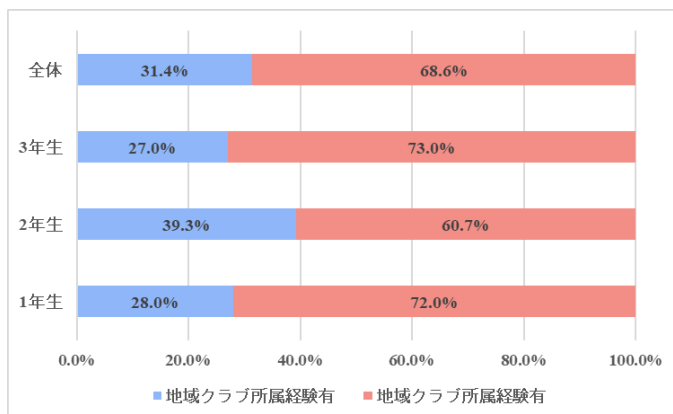


図 8. 地域クラブの所属経験

(8) 実施経験種目

部活動の実施経験種目は、ソフトテニス（144 名）が最も多く、次いでバスケットボール（97 名）、吹奏楽（79 名）であった。地域クラブ活動の実施経験種目は、サッカー（40 名）が最も多く、次いでバスケットボール（25 名）、卓球（24 名）であった。

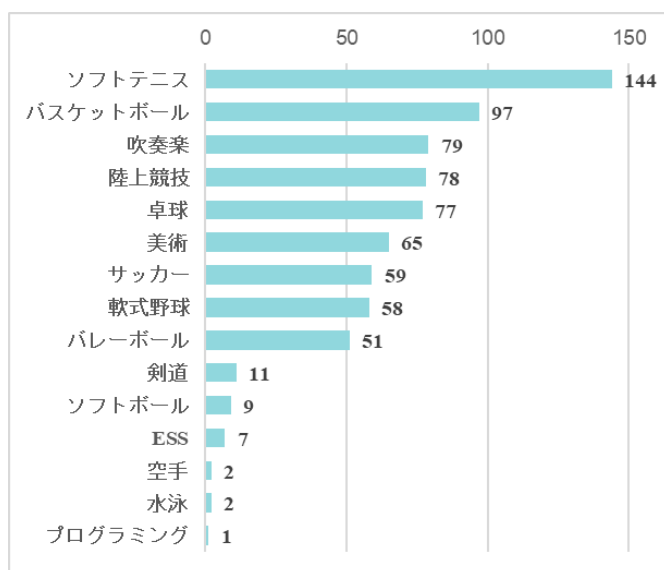


図 9. 実施経験種目（部活動）

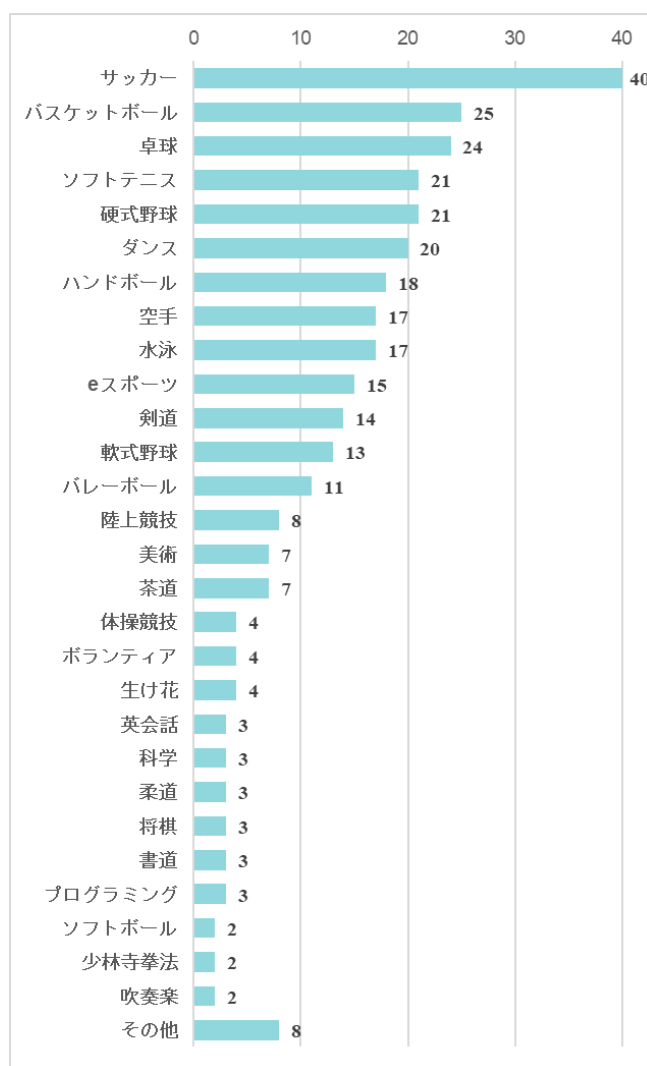


図 10. 実施経験種目（地域クラブ）

(9) 地域クラブでの実施希望種目

地域クラブ活動でどのような種目を実施してみたいか尋ねたところ、「バドミントンが 177 名で最も多く、次いでバスケットボール（133 名）、e スポーツ（130 名）であった。現在の部活動にはないバドミントンや e スポーツが上位となっており、生徒のニーズに対応した受け皿団体の育成が求められる。

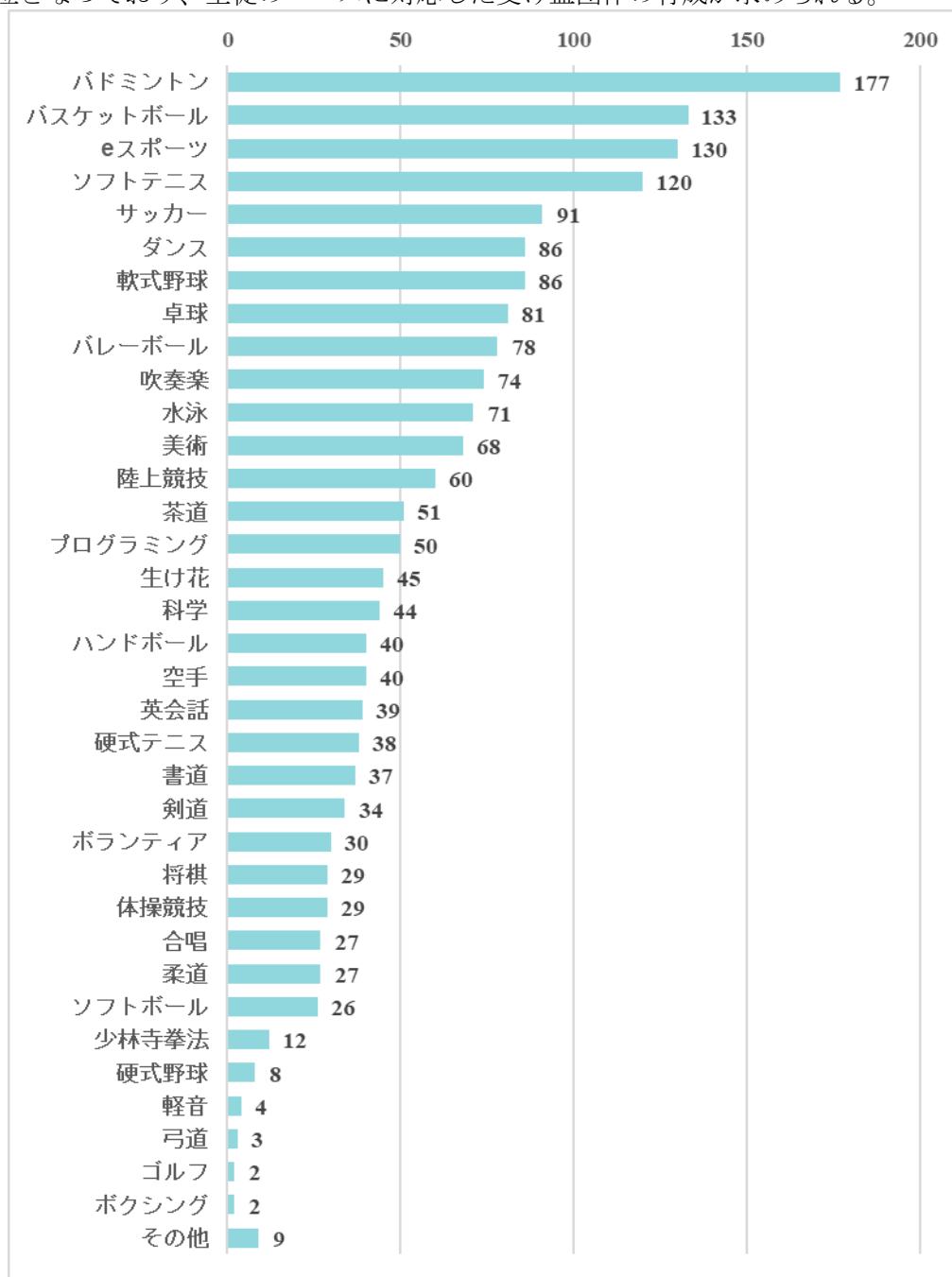


図 11. 地域クラブでの実施希望種目

(10) 部活動で感じたストレスの頻度

過去 6 ヶ月以内に部活動で感じたストレスの頻度について、「よくあった」と回答した割合が最も多かった項目は、「勉強との両立が難しくなった（19.8%）」であり、次いで「時間が長くて帰りがおそくなった（16.6%）」、「練習が厳しかった（12.7%）」であった。一方で、「上下関係が厳しすぎと思った」は 3.7%に留まった。学業や生活への影響に対するストレスが大きい一方で、対人関係に関するストレスの頻度は相対的に少ないことがうかがえる。

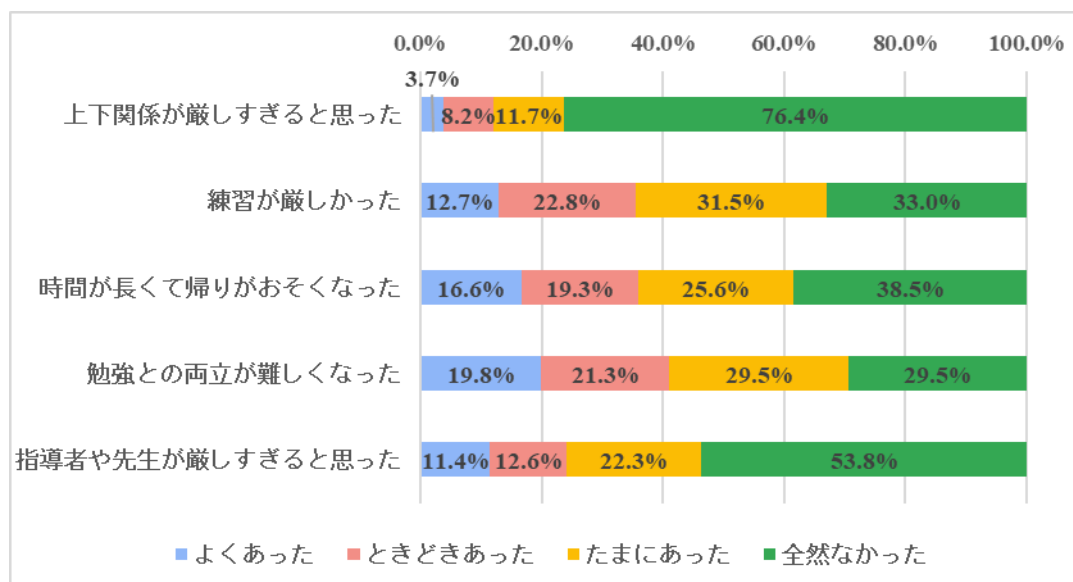


図 12. 部活動で感じたストレスの頻度

(11) 部活動で感じたストレスの度合い

過去 6 ヶ月以内に部活動で感じたストレスの度合いについて、「非常に嫌であった」と回答した割合が最も多かったのは「勉強との両立が難しくなった (14.1%)」であり、次いで「指導者や先生が厳しすぎと思った (11.7%)」、「時間が長くて帰りがおそくなった (11.1%)」となった。長い練習による学業への影響や厳しい指導が、一部の生徒に強い嫌悪感を抱かせていた。

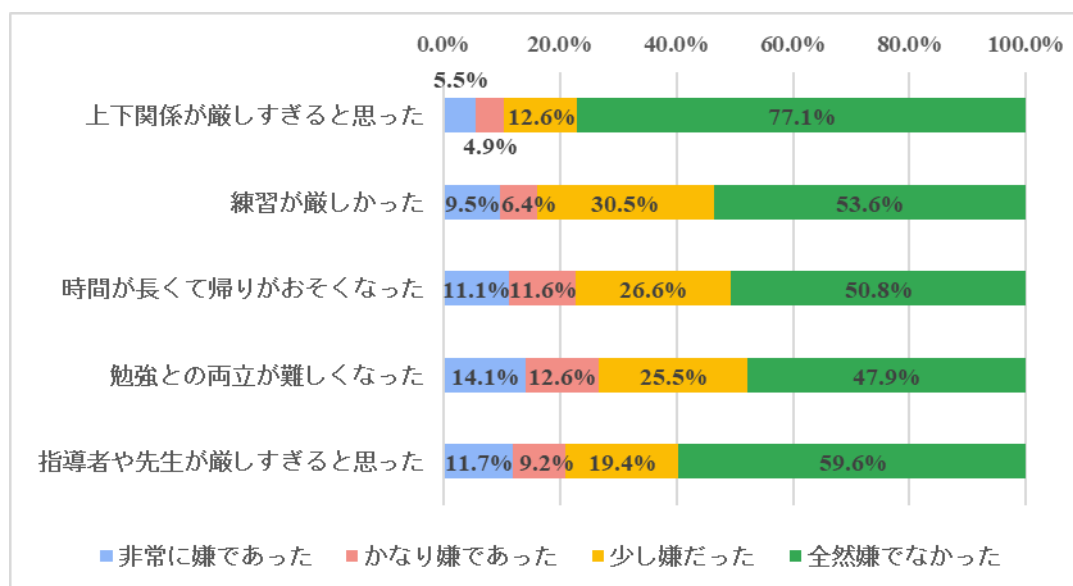


図 13. 部活動で感じたストレスの度合い

(12) 地域クラブ活動で感じたストレス頻度

過去 6 ヶ月以内に地域クラブ活動で感じたストレスの頻度について、「よくあった」と回答した割合が最も多かった項目は、「時間が長くて帰りがおそくなった (17.6%)」であった。このことから、活動時間の厳守や開始時間の調整などが必要であると考えられる。

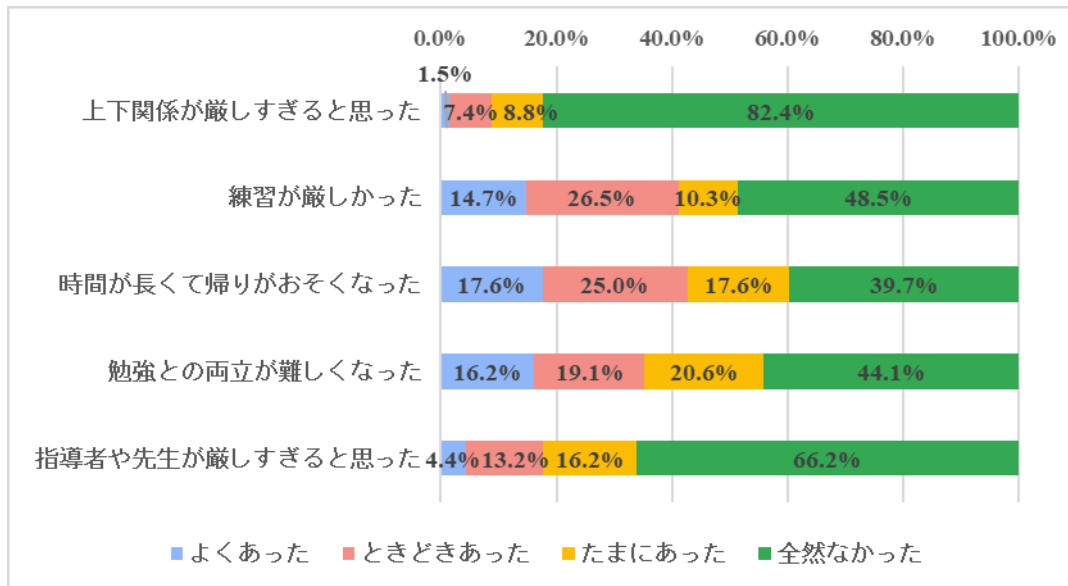


図 14. 地域クラブ活動で感じたストレスの頻度

(13) 地域クラブ活動で感じたストレスの度合い

過去 6 ヶ月以内に地域クラブ活動で感じたストレスの度合いについて、「勉強との両立が難しくなった (8.8%)」が最も多く、次いで「時間が長くて帰りがおそくなった (7.4%)」であった。一方で、「指導者や先生が厳しすぎと思った」は 1.5%に留まっており、部活動の場合と比べ大幅に低くなっていた。

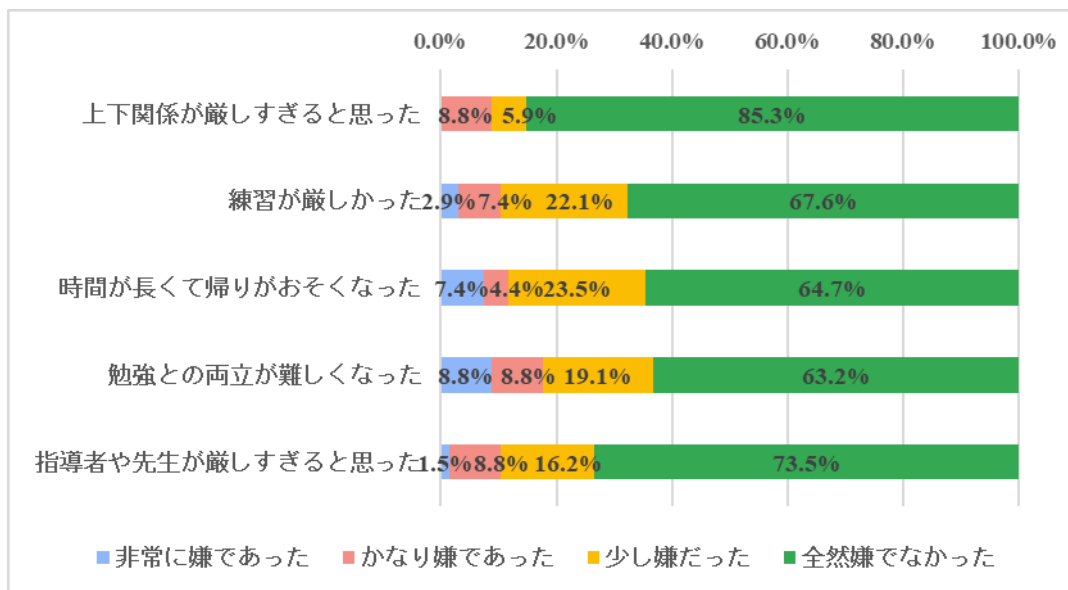


図 15. 地域クラブ活動で感じたストレスの度合い

(14) スポーツ種目実施者の動機づけ

部活動又は地域クラブでスポーツ種目を実施している生徒の動機づけについて、「非常にあてはまる」又は「当てはまる」と回答した割合が最も高かった項目は、「必要最低限の体力はつけた方が良いから (76.5%)」であり、次いで「運動をしないと、体力が落ちてしまう感じがするから (74.2%)」、「夢中になって運動するときの喜びを味わいたいから (60.3%)」であった。生徒は体力の維持・向上や運動への没頭を主な動機としており、自主性が高いことがうかがえる。

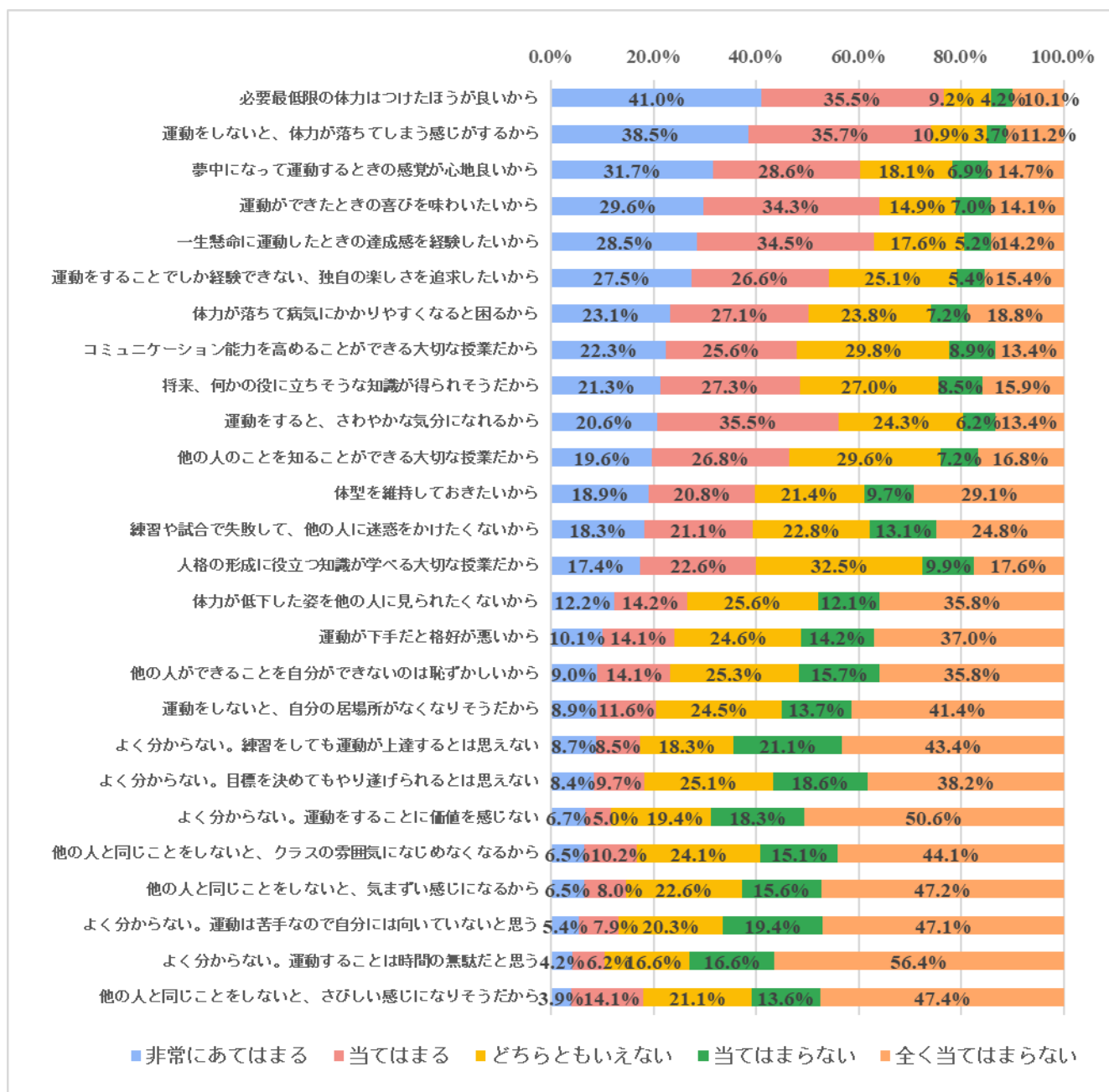


図 16. スポーツ種目実施者の動機づけ

(15) 文化種目実施者の動機づけ

部活動又は地域クラブで文化種目を実施している生徒の動機づけについて、「非常にあてはまる」又は「当てはまる」と回答した割合が最も高かった項目は、「他の人ができることを自分ができないのは恥ずかしいから（76.5%）」であり、次いで「活動すると、さわやかな気分になれるから（74.2%）」、「活動ができたときの喜びを味わいたいから（63.9%）」であった。周囲ができることを自分も同じようにできるようになりたいという外発的動機づけと、活動自体への満足感や達成感を味わうために実施するといった内発的動機づけの両面がみられた。

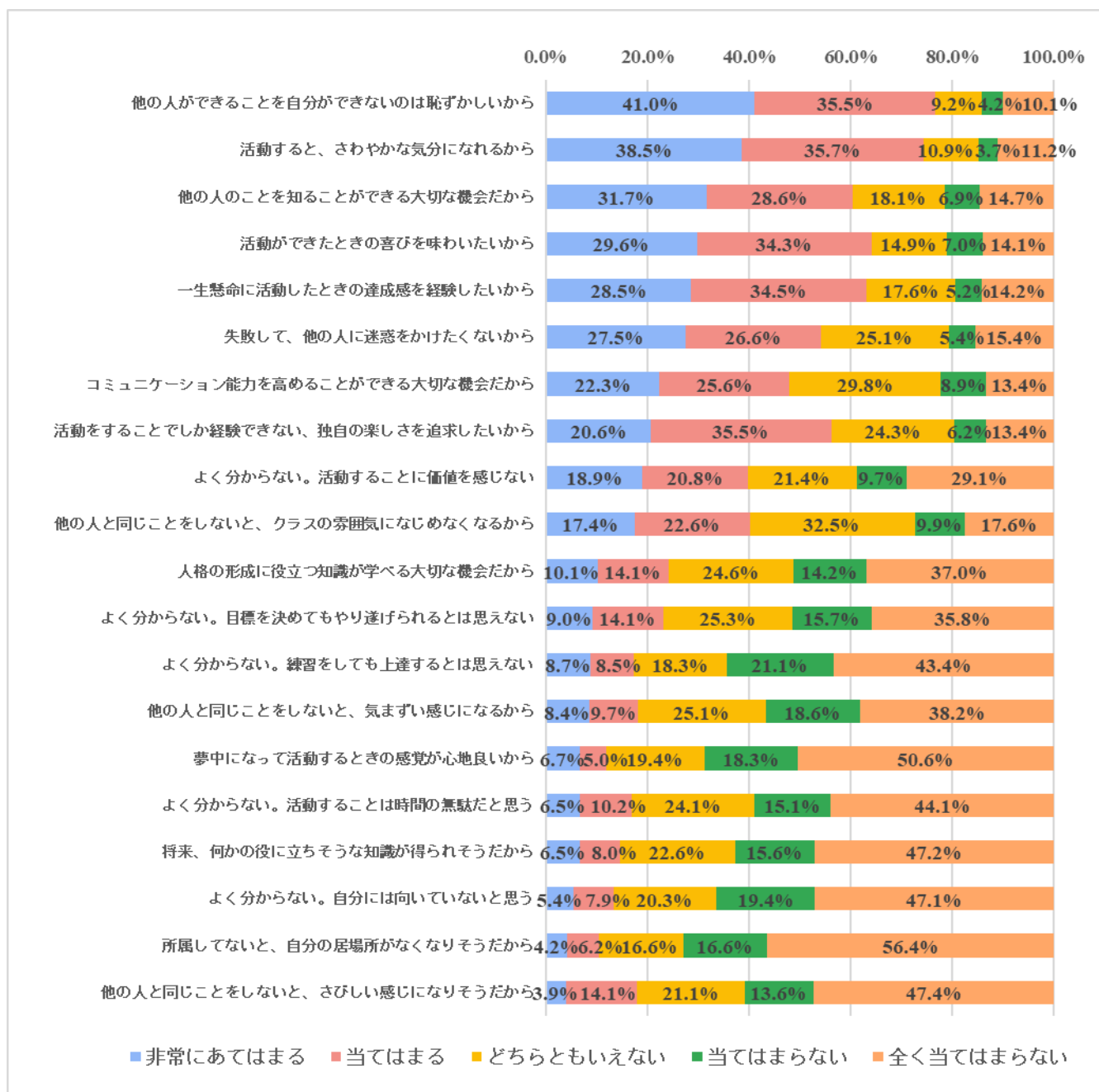


図 17. 文化種目実施者の動機づけ

(16) 部活動を通して得たいこと

部活動を通して得たいことについて、「そう思う」又は「ややそう思う」と回答した割合が高い項目は、「中学校生活を楽しく豊かにしたい（89.3%）」、「試合で勝つ喜びを味わいたい（85.6%）」、「スポーツ（競技）や文化・技術などを楽しみたい（84.3%）」であった。一方で、「高校や大学の進学に役立てたい」は、54.1%と最も低い結果であった。生徒は部活動を通して学校生活を充実させ、喜びや楽しさを味わいたいと考えていることが分かった。

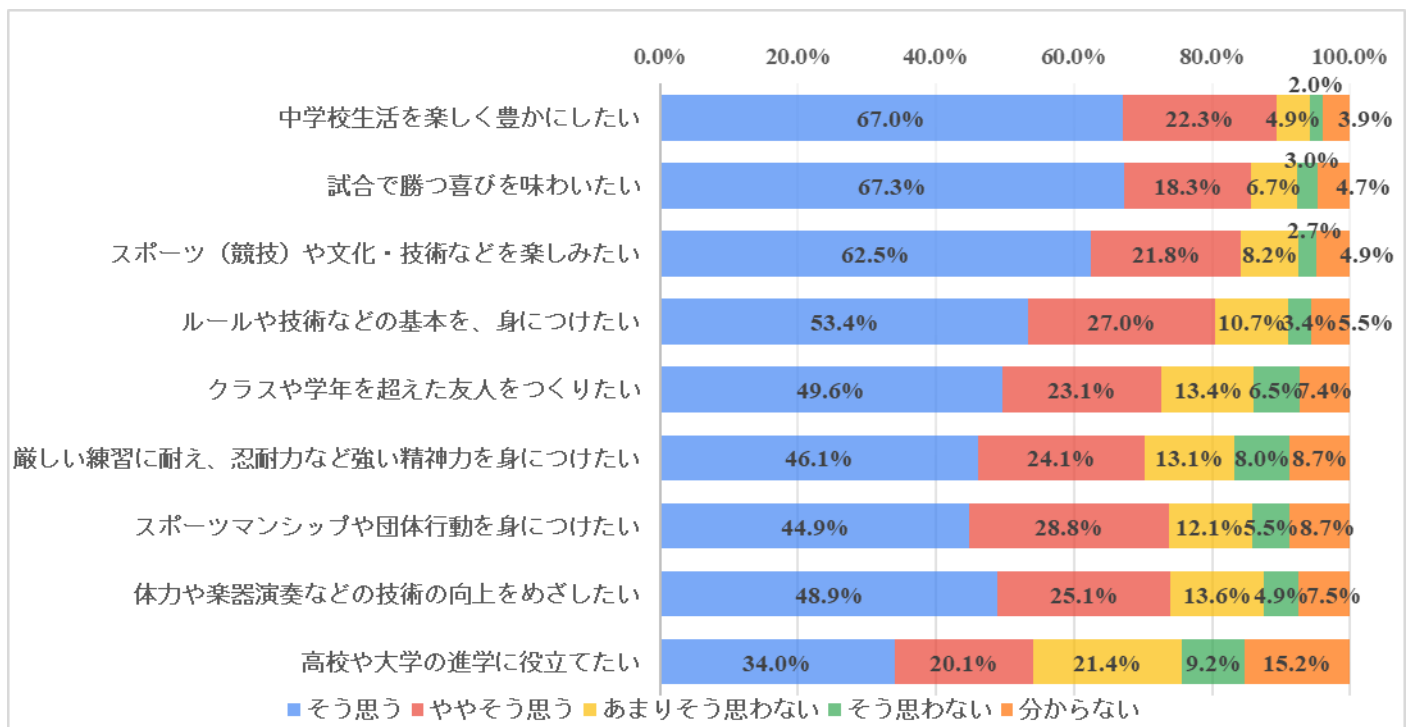


図 18. 部活動を通して得たいこと

(17) 地域クラブ活動を通して得たいこと

地域クラブ活動を通して得たいことについて、「そう思う」又は「ややそう思う」と回答した割合が高い項目は、「中学校生活を楽しく豊かにしたい（79.4%）」、「スポーツ（競技）や文化・技術などを楽しみたい（79.4%）」、「ルールや技術などの基本を、身につけたい（76.4%）」であった。部活動と同様に地域クラブ活動においても学校生活の充実や楽しい活動を求めていることが分かる。

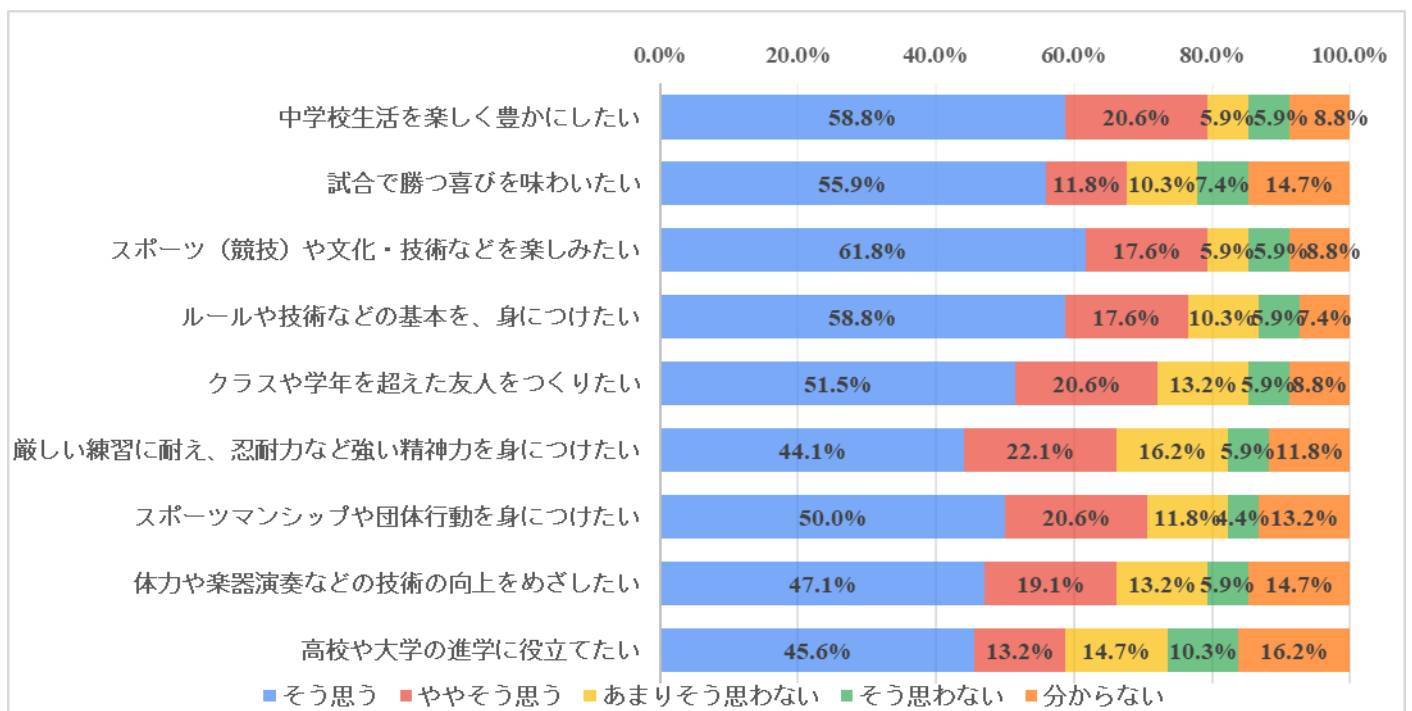


図 19. 地域クラブ活動を通して得たいこと

(18) 部活動の問題点

部活動の問題点について、「そう思う」又は「ややそう思う」と回答した割合が高かった項目は、「学業との両立が難しい（36.7%）」、「肉体的・精神的に疲労がたまる（34.4%）」、「部活動の日数が長すぎる（28.4%）」であった。一方で、「家族の理解がない（11.2%）」や「他の部員との関係が悪い（14.8%）」と回答した割合は低かった。活動日数の増加などによる疲労の蓄積や学業との両立に影響が出ることに對して問題意識を持っていることが分かる。

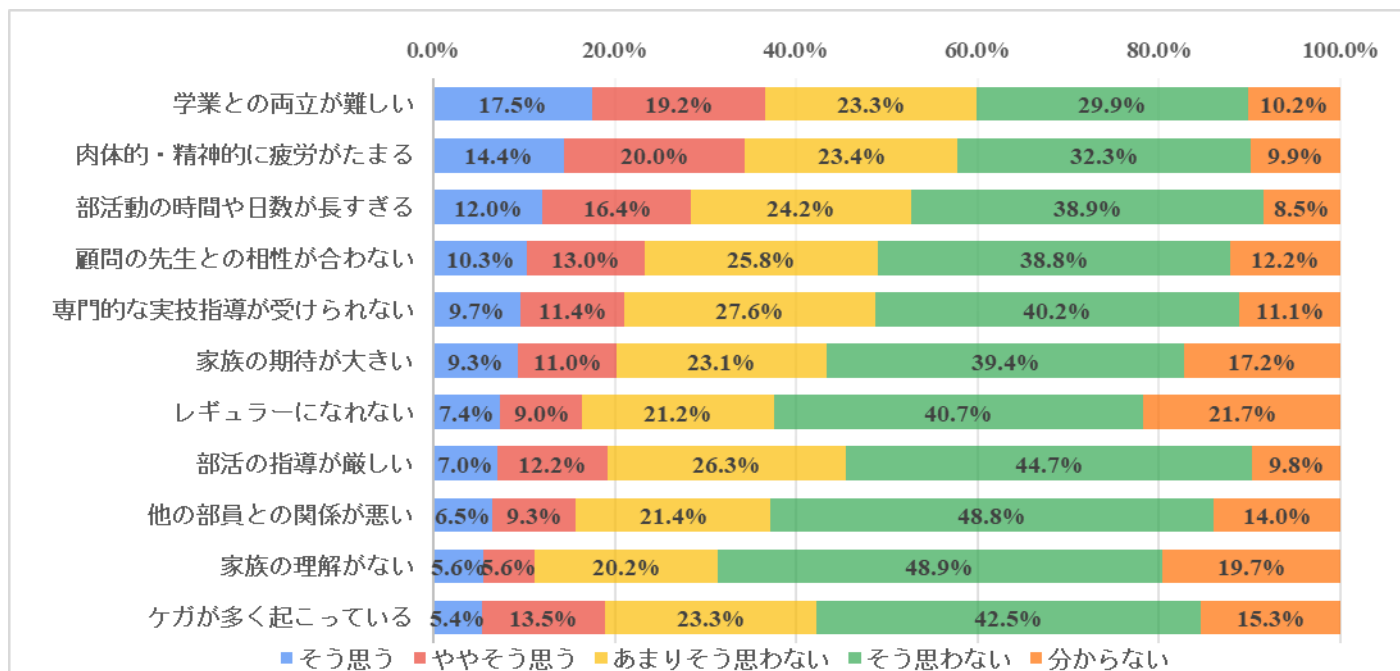


図 20. 部活動の問題点

(19) 指導者の希望

指導者に関する希望については、全体では「地域の指導者」を希望する生徒（22.1%）が「学校の先生」を希望する割合（21.8%）をわずかに上回った。所属別にみると、部活動に所属している生徒は「地域指導者（15.8%）」よりも「学校の先生（23.7%）」を希望する割合が多かった。一方で、地域クラブに所属している生徒は「地域の指導者（55.9%）」が「学校の先生（4.4%）」を大幅に上回った。現在の生徒の所属によって、望ましいと考える指導者に違いがあることがうかがえる。

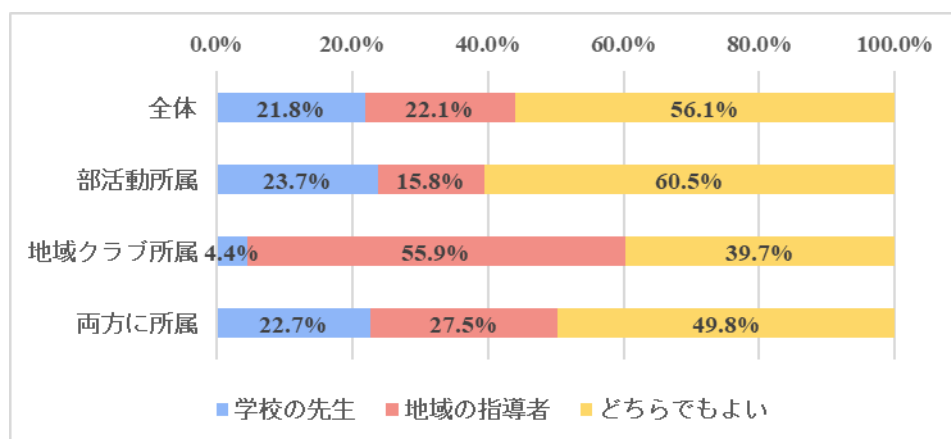


図 21. 指導者の希望

2 小学生調査

(1) 地域クラブへの所属状況

地域クラブに所属している割合は、「入っている（53.3%）」が「入っていない（46.7%）」を上回った。学年別にみると、4年生の所属している割合が最も高く、63.3%であった。

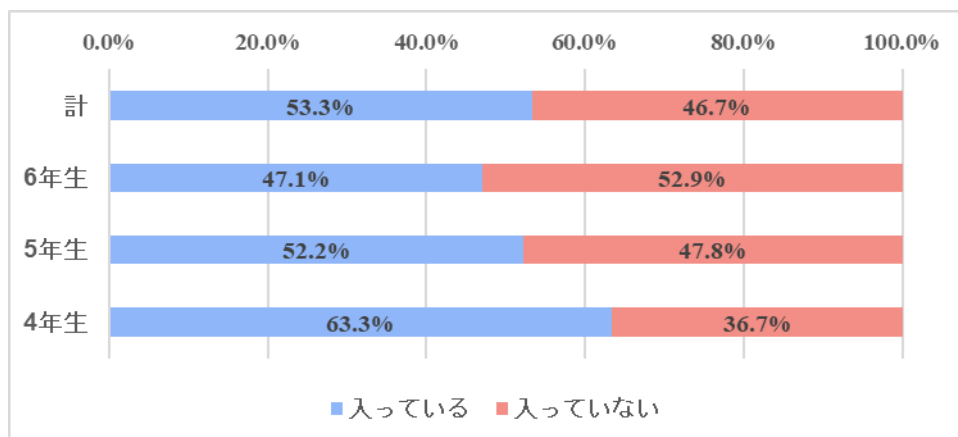


図 22. 地域クラブの所属状況

(2) 地域クラブにおける活動種目

地域クラブにおける活動種目は、「水泳（n = 81）」が最も多く、次いで「サッカー（n = 63）」、「バスケットボール（n = 57）」、「陸上競技（n = 57）」の順に多かった。

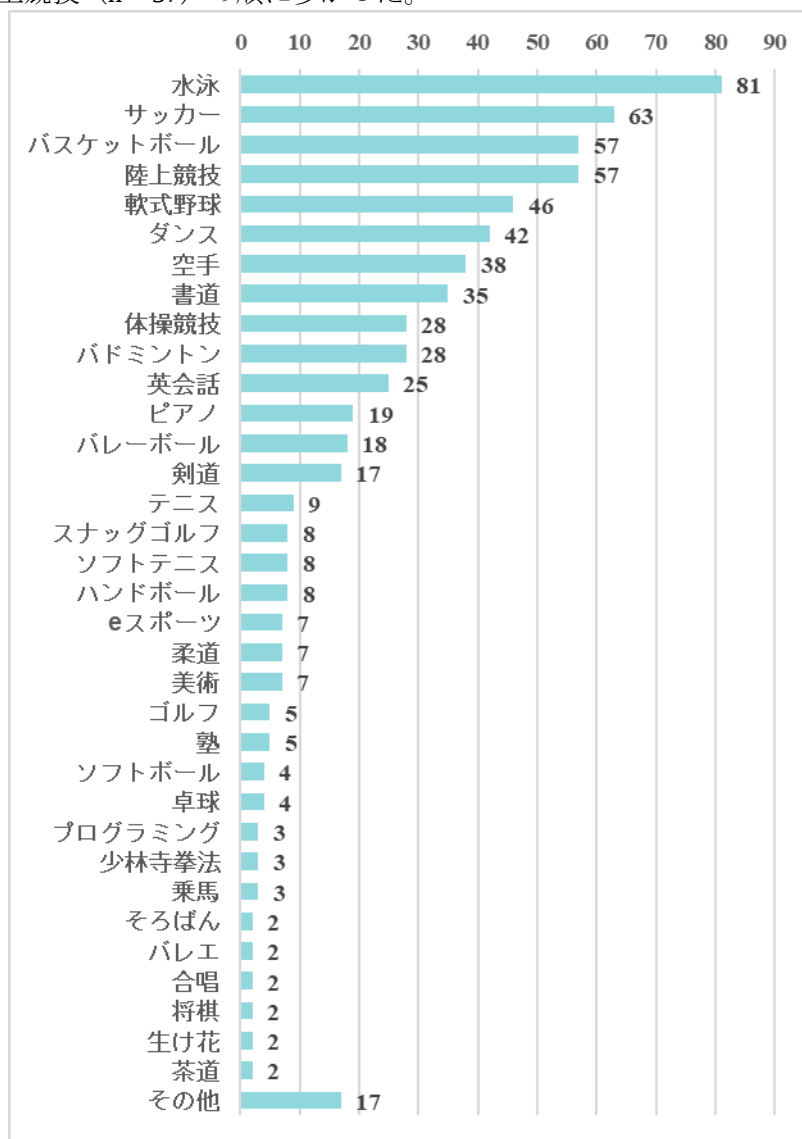


図 23. 地域クラブにおける活動種目

(3) 中学校部活動での活動希望種目

中学校部活動での活動希望種目は、「バドミントン (n = 152)」が最も多く、次いで「e スポーツ (n = 145)」であった。どちらの種目も既存の部活動にはないが、地域クラブとして活動が行われている種目である。

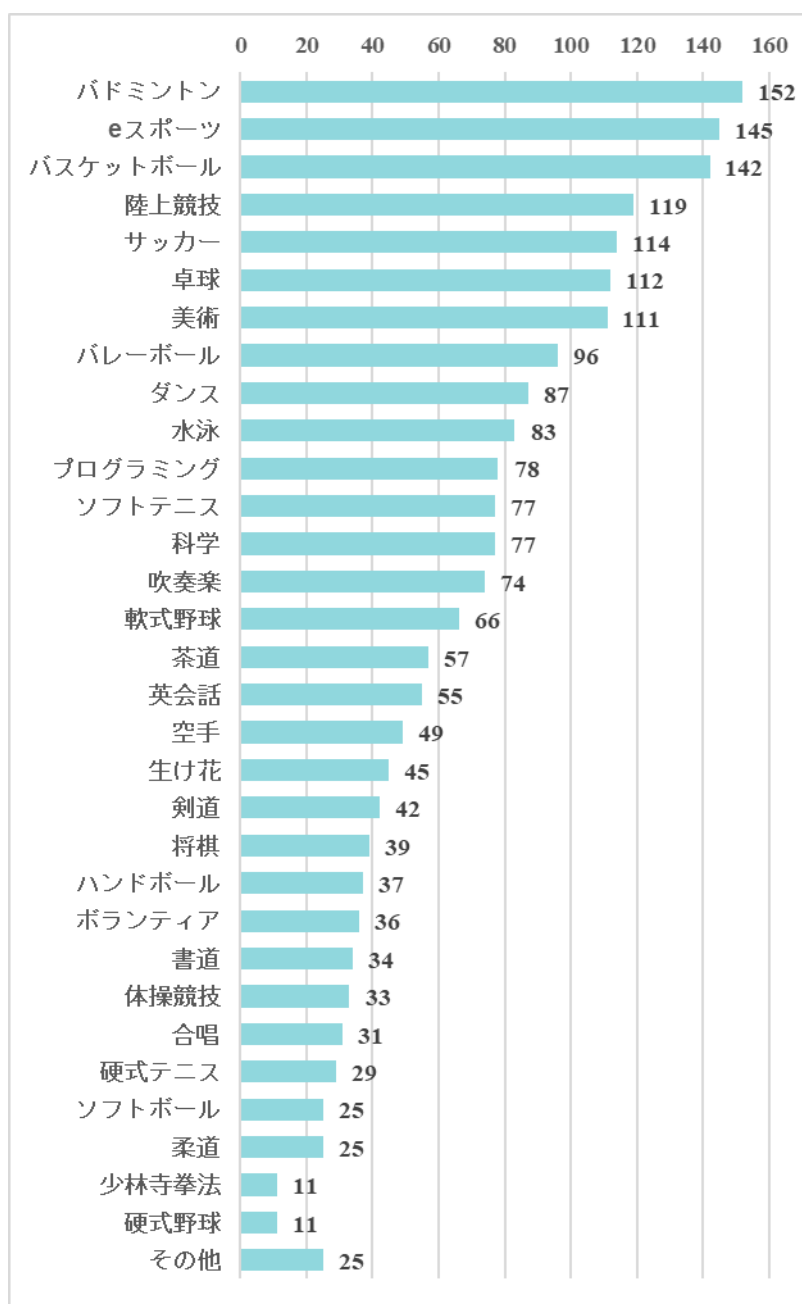


図 24. 中学校部活動での希望種目

(4) 部活動に対する期待

部活動に対する期待について、「そう思う」又は「ややそう思う」と回答した割合が高かった項目は、「中学校生活を楽しく豊かにしたい (94.3%)」、「スポーツ (競技) や文化・芸術などを楽しみたい (87.1%)」であった。中学校生活やスポーツ・文化芸術活動を楽しみたいという期待が表れていた。

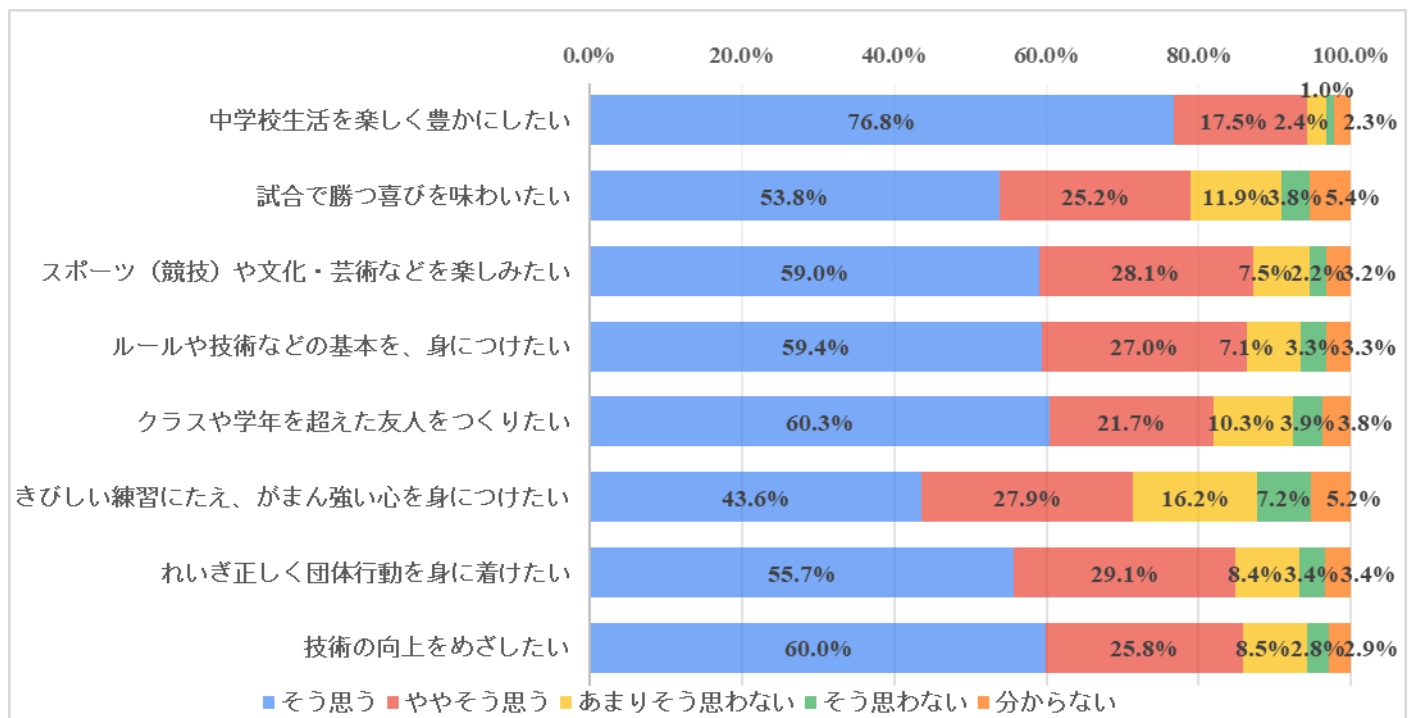


図 25. 部活動に対する期待

3 保護者調査

(1) 子どもの部活動の所属経験（中学生保護者）

子どもが部活動に所属した経験があると回答した保護者の割合は、全体で 85.8%であった。また、学年別で最も多かったのは 3 年生の 89.3%であった。

地域クラブの所属経験の割合は、全体で 20.5%であり、学年別で 1 年生（23.1%）が最も多かった。

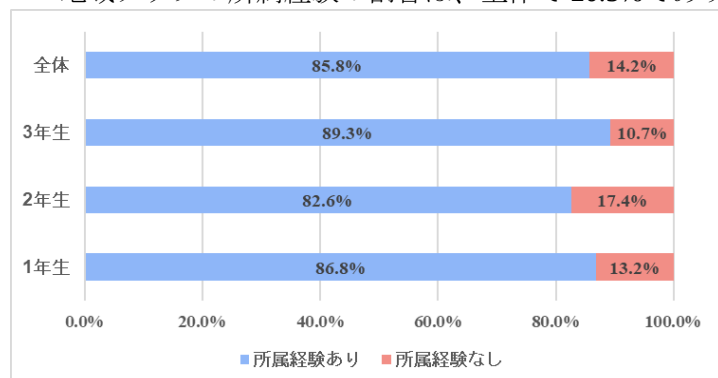


図 26. 子どもの部活動の所属経験（中学生）

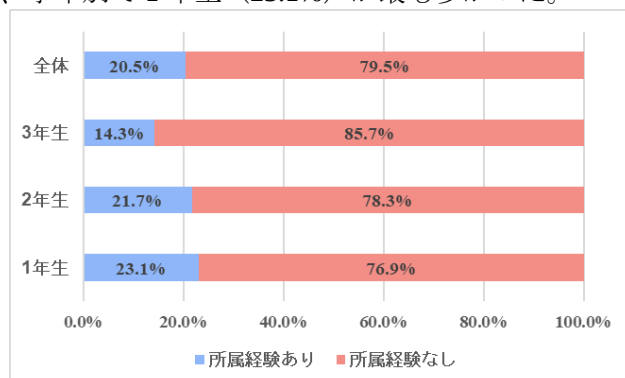


図 27. 子どもの地域クラブの所属経験（中学生）

(2) 子どもの部活動の経験種目（中学生保護者）

子どもの部活動の経験種目は「ソフトテニス（45 名）」が最も多く、次いで「バスケットボール（36 名）」であった。また、地域クラブの所属経験は「バスケットボール（9 名）」、「ハンドボール（8 名）」、「e スポーツ（4 名）」、「サッカー（4 名）」の順に多くなっていた。

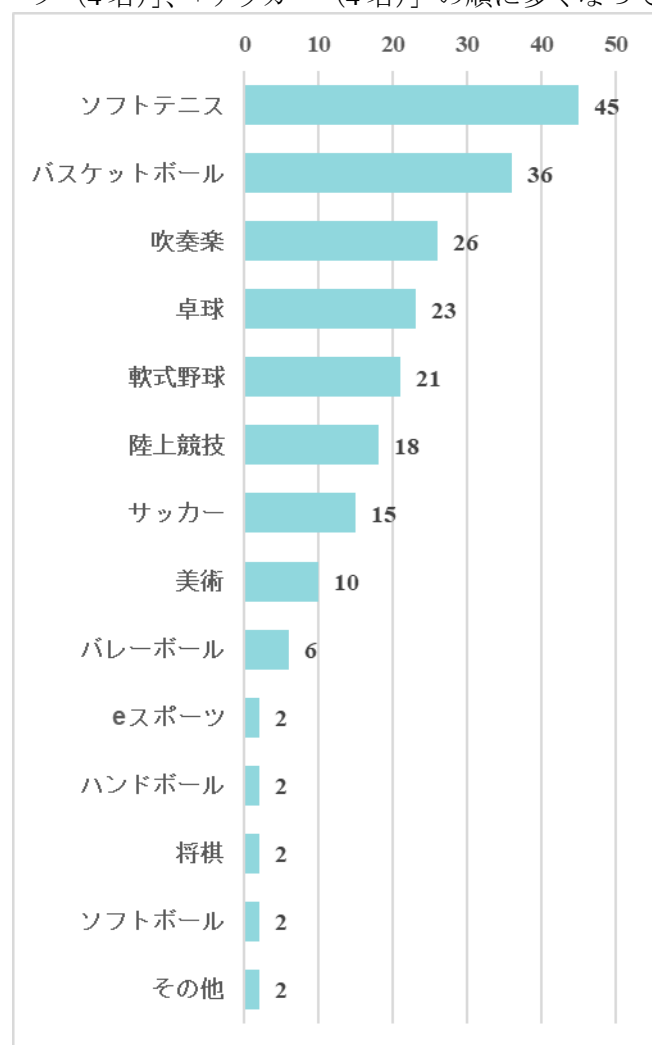


図 28. 子どもの部活動での種目経験（中学生）

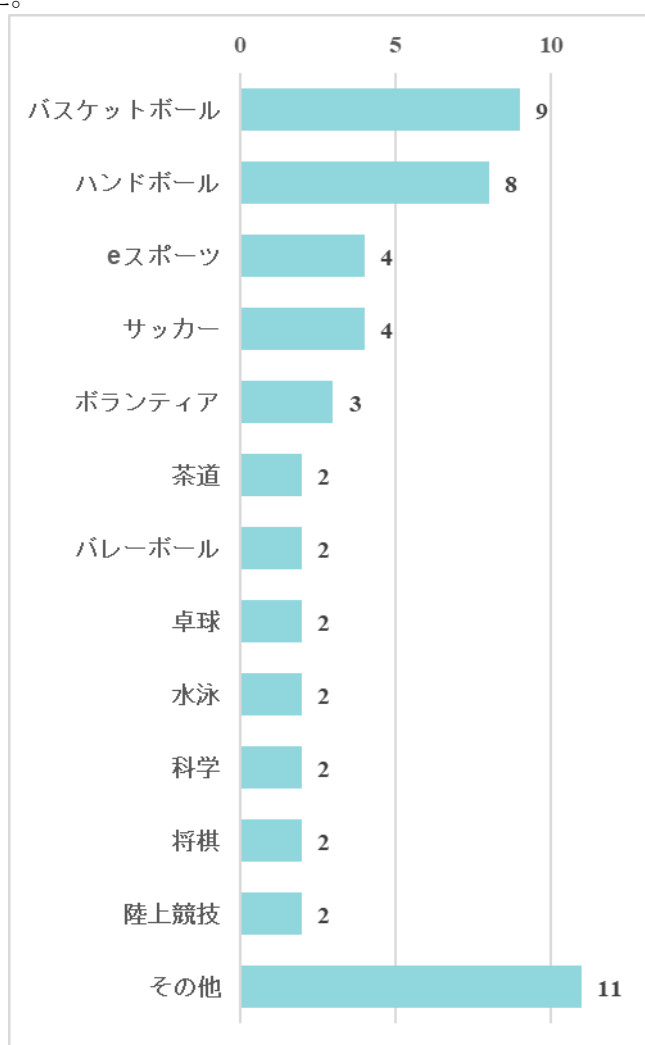


図 29. 子どもの地域クラブの種目経験（中学生）

(3) 子どもの部活動の所属経験（小学生保護者）

子どもが地域クラブに所属した経験があると回答した保護者の割合は、全体で 47.6%であった。学年別で最も多かったのは 4 年生の 51.0%であった。

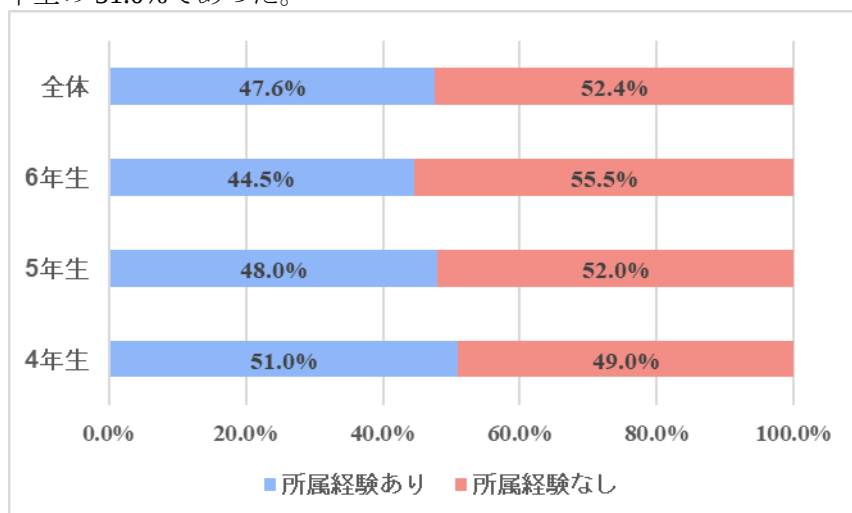


図 30. 子どもの地域クラブの所属経験（小学生）

(4) 子どもの地域クラブの活動種目（小学生保護者）

子どもの地域クラブ活動種目で最も多かったのは、「バスケットボール（32 名）」であり、次いで、「サッカー（28 名）」、「陸上競技（24 名）」、「ダンス（21 名）」であった。

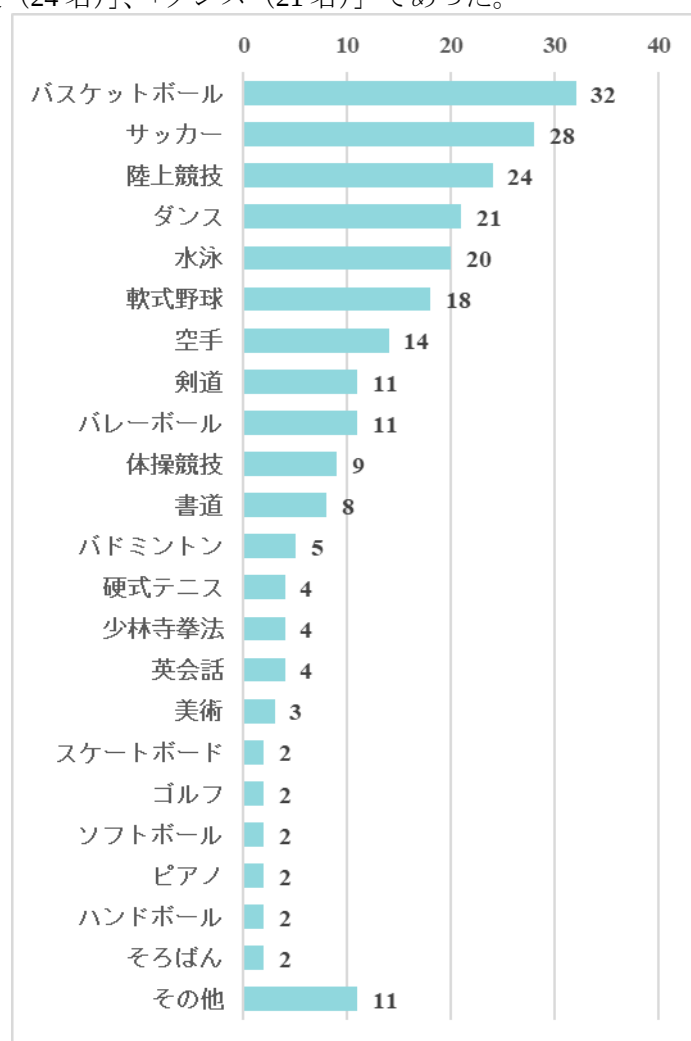


図 31. 子どもの地域クラブの活動種目（小学生）

(5) 部活動に対する期待

部活動に対する期待について、「そう思う」又は「ややそう思う」と回答した割合が高かった項目は、「中学校生活を楽しく豊かであってほしい（83.3%）」、「体力や楽器演奏などの技術の向上をめざさせたい（82.3%）」であった。一方で、最も低かった項目は、「高校や大学の進学に役立てたい（60.7%）」であった。

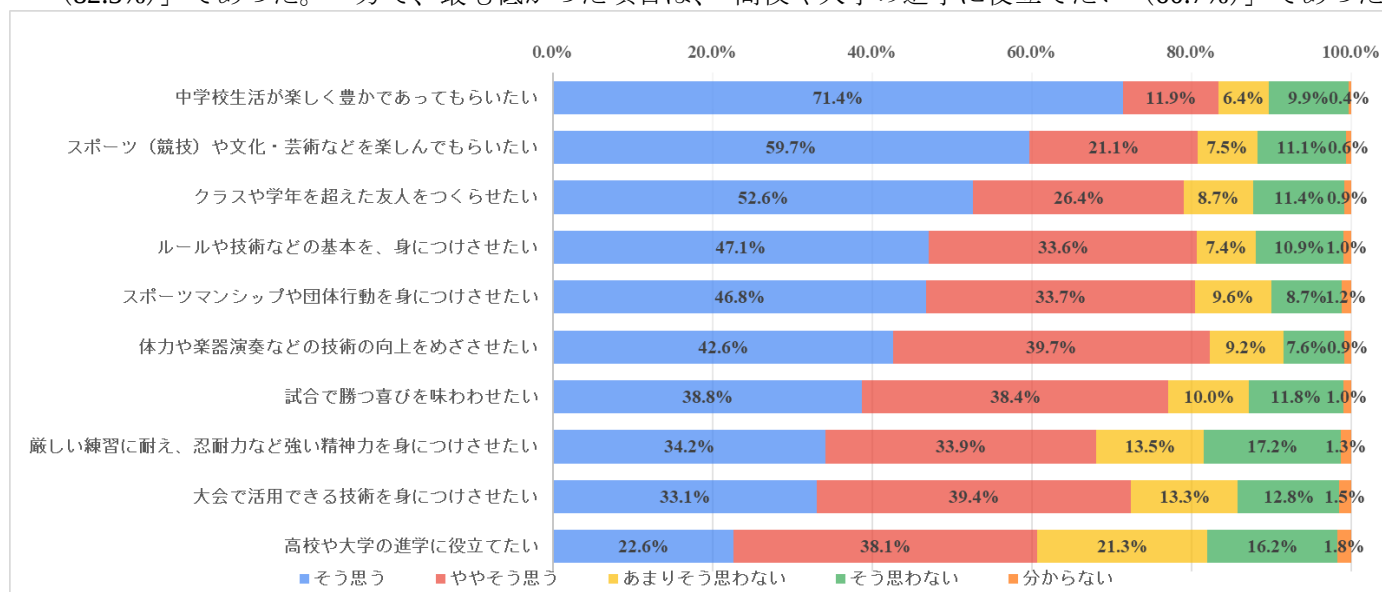


図 32. 部活動に対する期待

(6) 部活動の問題点

部活動の問題点について、「そう思う」又は「ややそう思う」と回答した割合が最も高かった項目は、「専門的な実技指導が受けられない（36.2%）」であった。一方で、「他の部員との関係が悪い（9.2%）」、「ケガが多く起こっている（10.0%）」、「部活の指導が厳しい（10.7%）」といった項目は相対的に低かった。対人関係や安全面に対する問題意識は限定的であった一方で、指導者の専門性の欠如に対する問題意識は高かった。

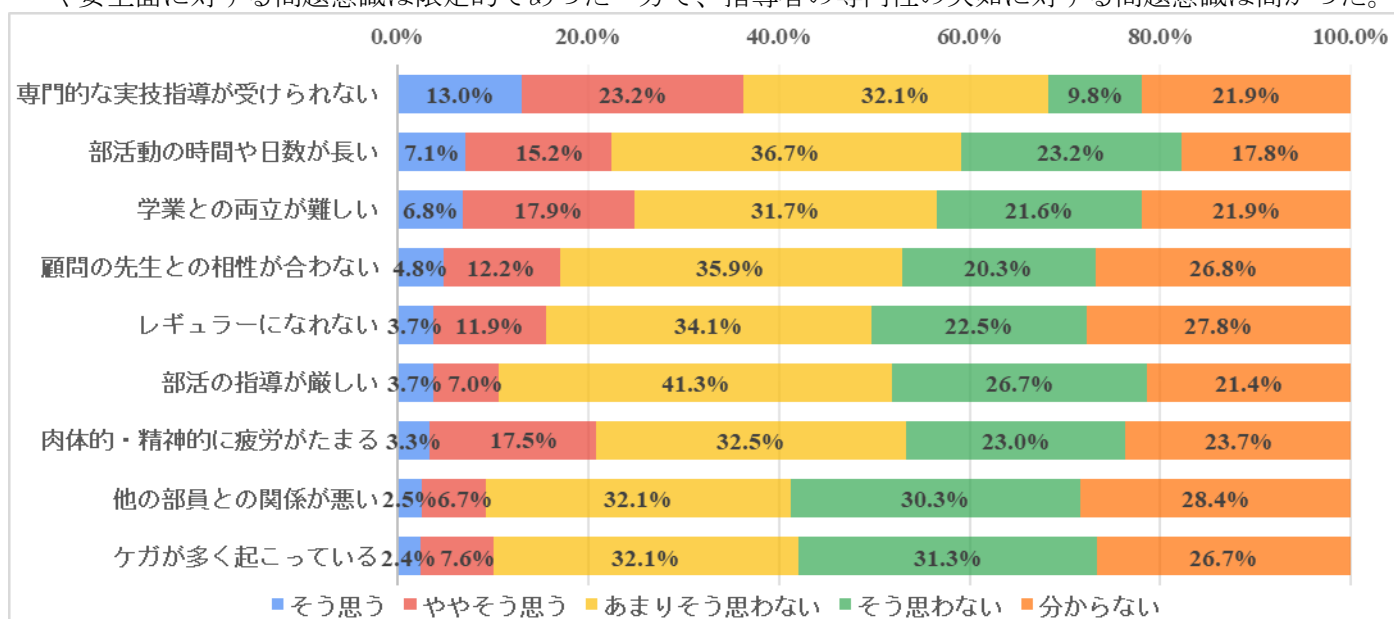


図 33. 保護者の部活動の問題点

(7) 地域移行（展開）に対する賛否

地域移行（展開）に「賛成である」又は「どちらかと言えば賛成である」と回答した割合は 77.8%であり、概ね肯定的であった。一方で反対は 10.8%であった。

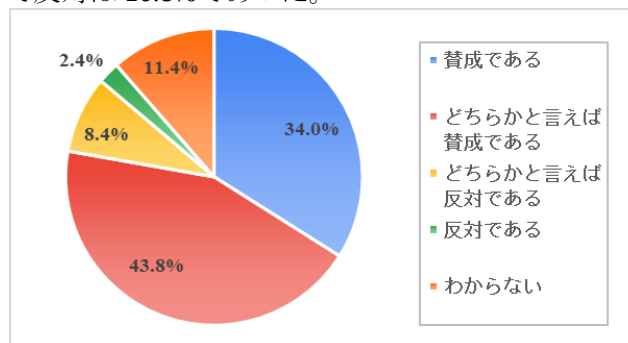
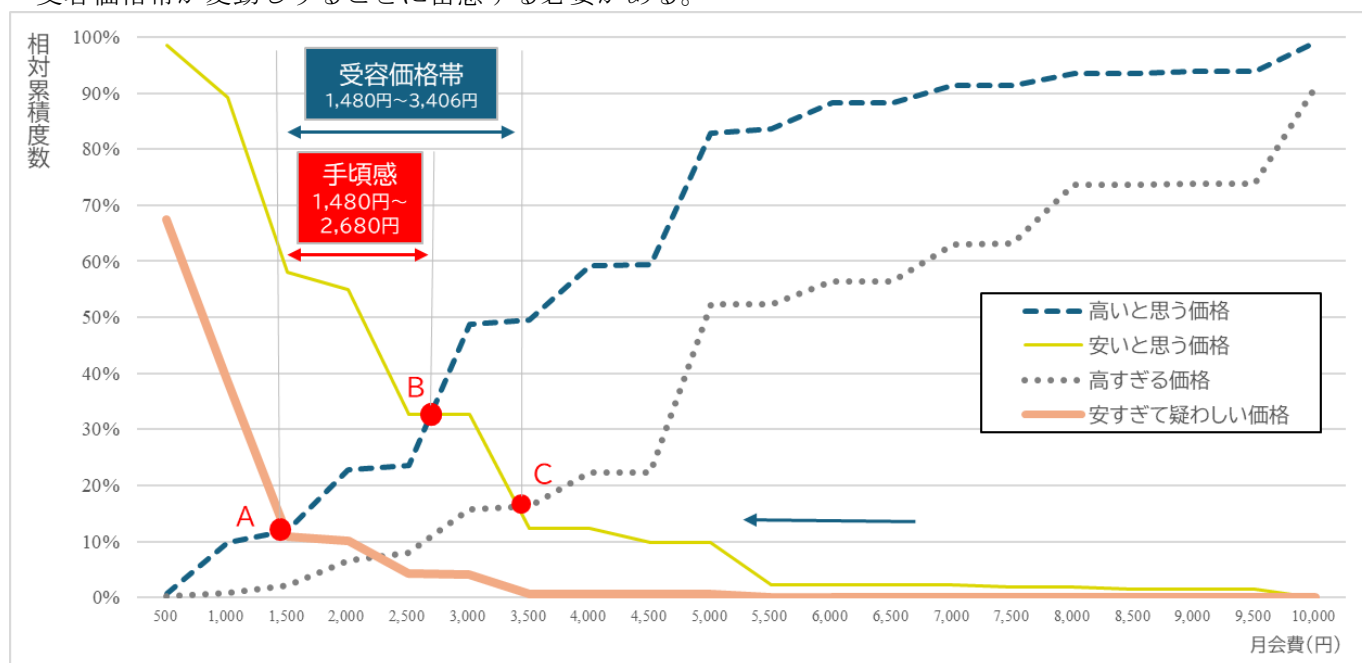


図 34. 地域移行（展開）に対する賛否

(8) 地域クラブ活動に要する月会費の受容価格帯

地域クラブ活動に要する月会費について、「高いと思う価格」、「安いと思う価格」、「高すぎる価格」、「安すぎて疑わしい価格」を尋ね、それぞれの価格の分布を示した。「安すぎて疑わしい価格」と「高いと思う価格」の交点Aは、その価格より安くなるとサービスの質に不安を感じ、加入をためらうことから「下限価格」とされている。「安いと思う価格」と「高いと思う価格」の交点Bは、価格に対する反応が拮抗する点であることから「妥協価格」とされている。「安いと思う価格」と「高すぎる価格」の交点Cは、この価格以上になると高すぎて加入しない層が多くなることから「上限価格」とされている。

結果として、保護者の地域クラブ活動に要する月会費の受容価格帯は 1,480 円～3,406 円となった。また、受容価格帯の中でも、特に妥協価格よりも安く、下限価格よりも高い範囲が「手頃感」をもって受け入れられる価格帯（1,480 円～2,680 円）となる。一方で、サービスの質（指導体制、練習頻度等）や種目によって受容価格帯が変動しうることには留意する必要がある。



備考：A = 下限価格、B = 妥協価格、C = 上限価格

図 35. 地域クラブ活動の月会費の受容価格帯

(9) 地域クラブ活動に対する不安（複数回答）

地域クラブ活動に対する不安としては、「送迎等で、身体的・時間的負担が増えるのでは（n = 300）」が最も多く、次いで「円滑な活動運営ができるのか（n = 264）」であった。部活動と比べて保護者の負担が増えることや地域クラブの運営面に対して不安を感じていることがうかがえる。

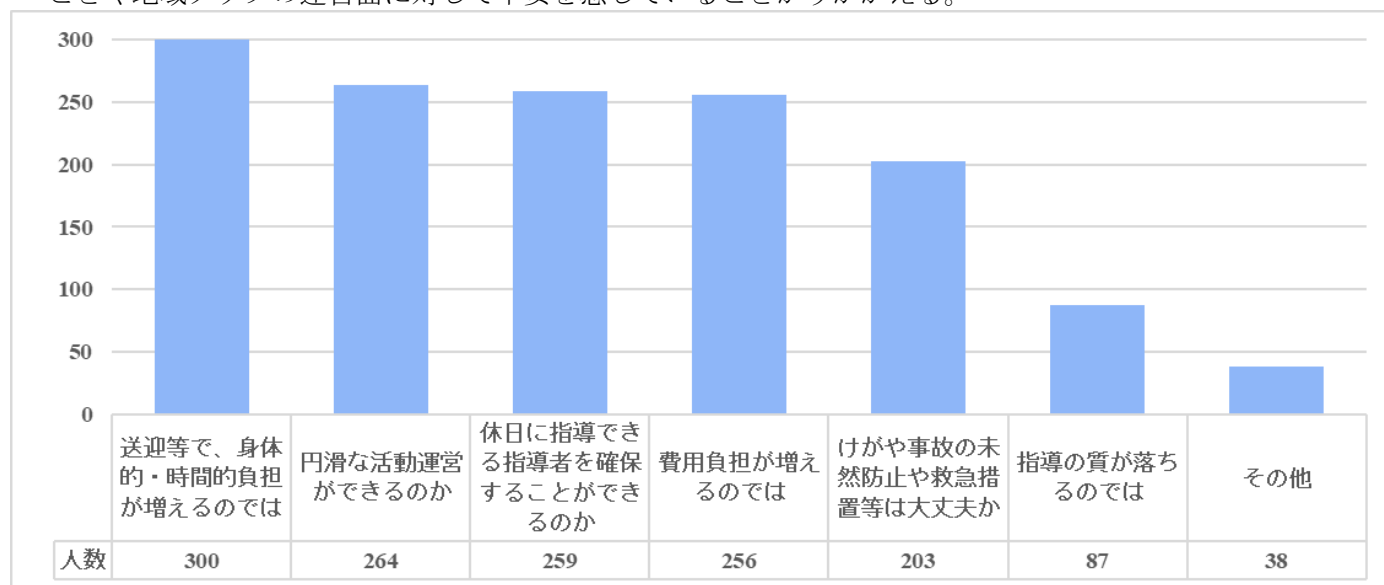


図 36. 地域クラブ活動に対する不安

(10) 地域クラブの運営の重要度

地域クラブの運営における重要度が高い項目は、「団体内ではメンバー間で情報共有が徹底されている（91.1%）」、「十分な数の指導者が配置されている（90.7%）」であった。一方で、重要度が相対的に低かった項目は「学校との連携が図られている（76.6%）」「運営スタッフが充実している（78.2%）」であった。教員は指導者の配置や情報共有といった複数名による指導連絡体制に重きをおいていることが明らかになった。

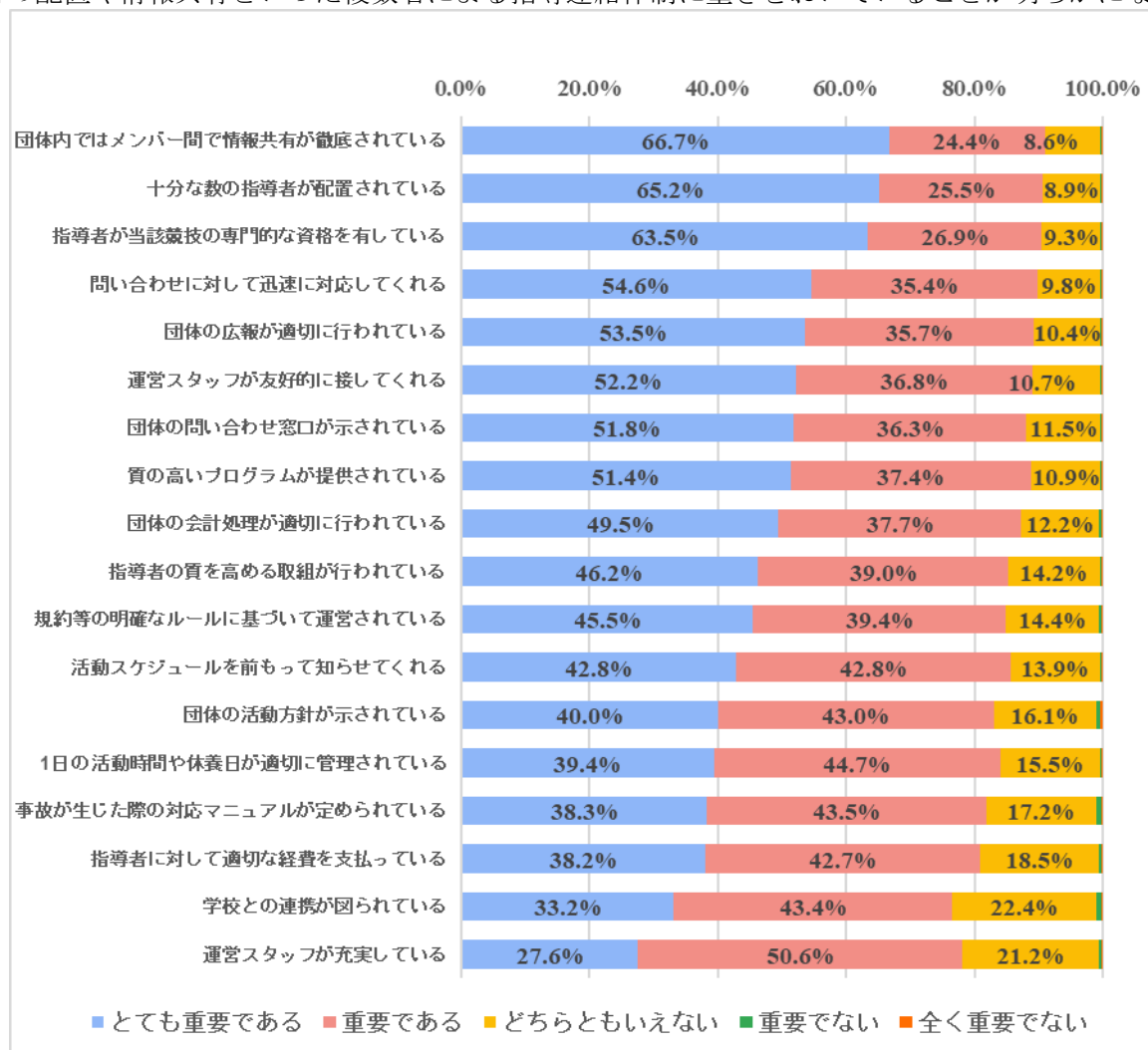


図 37. 地域クラブ活動の運営の重要度（保護者）

4 教員調査

(1) 年代

教員の年代は、30歳代が43%と最も多く、次いで、20歳代の26%であった。

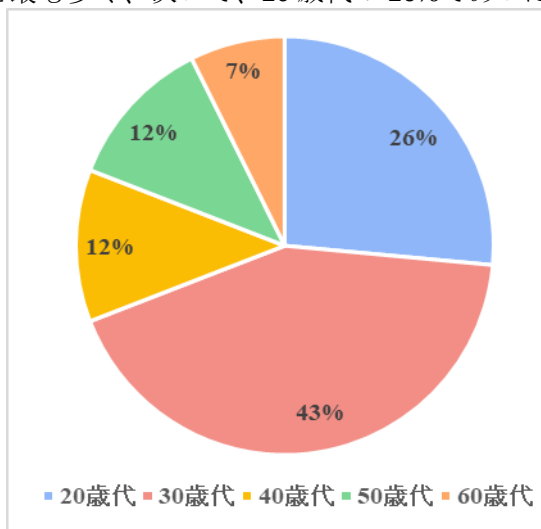


図 38. 年代

(2) 指導する部活動の種目経験（中学校教員のみ回答）

現在指導している部活動について、43.2%の教員が「経験種目である」と回答した。一方で、「経験種目ではなく自信がない」と回答した割合は24.3%であり、当該教員の負担や部活動の質の低下が懸念される。

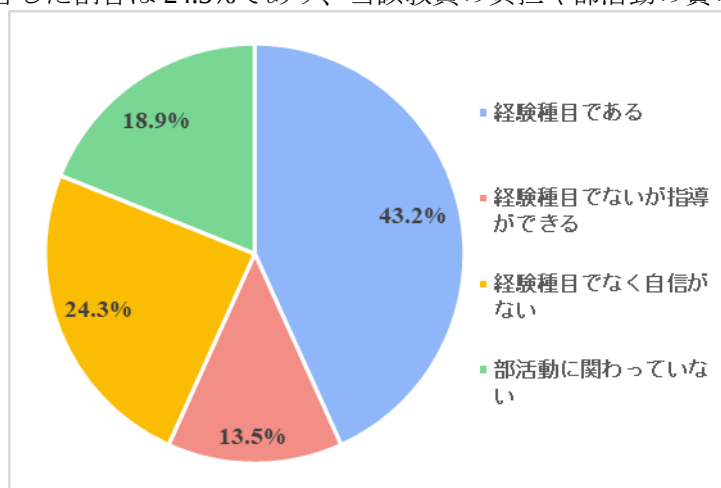


図 39. 指導する部活動の種目経験

(3) 年間の学校外での活動日数（中学校教員のみ回答）

年間に学校外での試合や遠征に費やしている日数は、「31日以上（26.7%）」が最も多かった。一方で、「0日」又は「1日～5日」と回答した割合は30.0%であり、種目等によって学校外での活動日数が異なると考えられる。

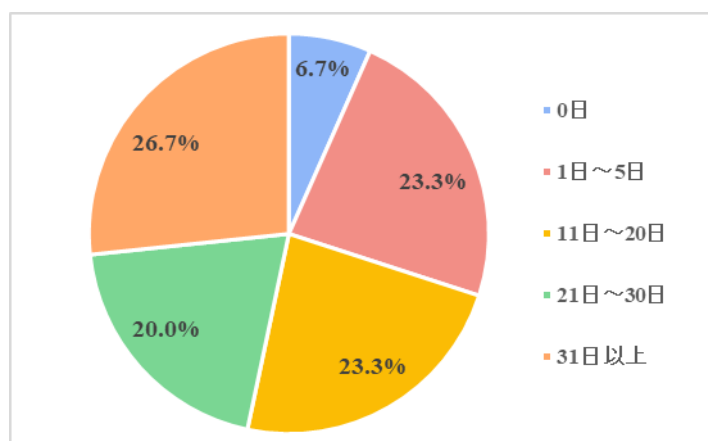


図 40. 年間の学校外での活動日数

(4) 部活動の意義

部活動の意義について、「そう思う」「ややそう思う」と回答した割合が高かった項目は、「クラスや学年を超えた友人ができる（98.5%）」、「中学校生活が楽しく豊かになる（97.1%）」であった。一方、低かった項目は、「高校や大学の進学に役立つ（42.1%）」、「厳しい練習に耐え、忍耐力など強い精神力が身につく（75.5%）」であった。顧問は部活動を通して友人関係の構築や学校生活の充実に期待していることが分かる。

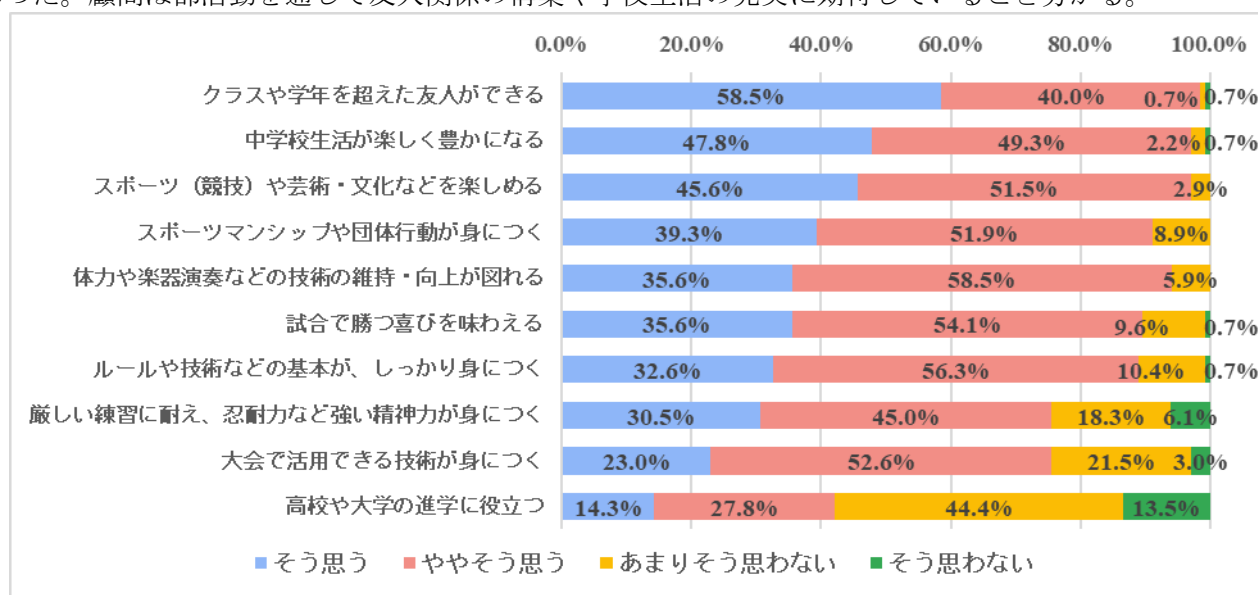


図 41. 部活動の意義

(5) 部活動の問題点

部活動の問題点として「そう思う」又は「ややそう思う」と回答した割合が最も高かった項目は、「希望以外の担当顧問の増加（90.4%）」であり、専門外の種目を教えていることへの問題意識が表れた。一方で、相対的に低い項目は「顧問の行き過ぎた指導（41.2%）」や「入部率の低下（53.0%）」であった。なお、「顧問の行き過ぎた指導」については、他の項目と比較して割合は低いものの、4割を超えている点に留意する必要がある。

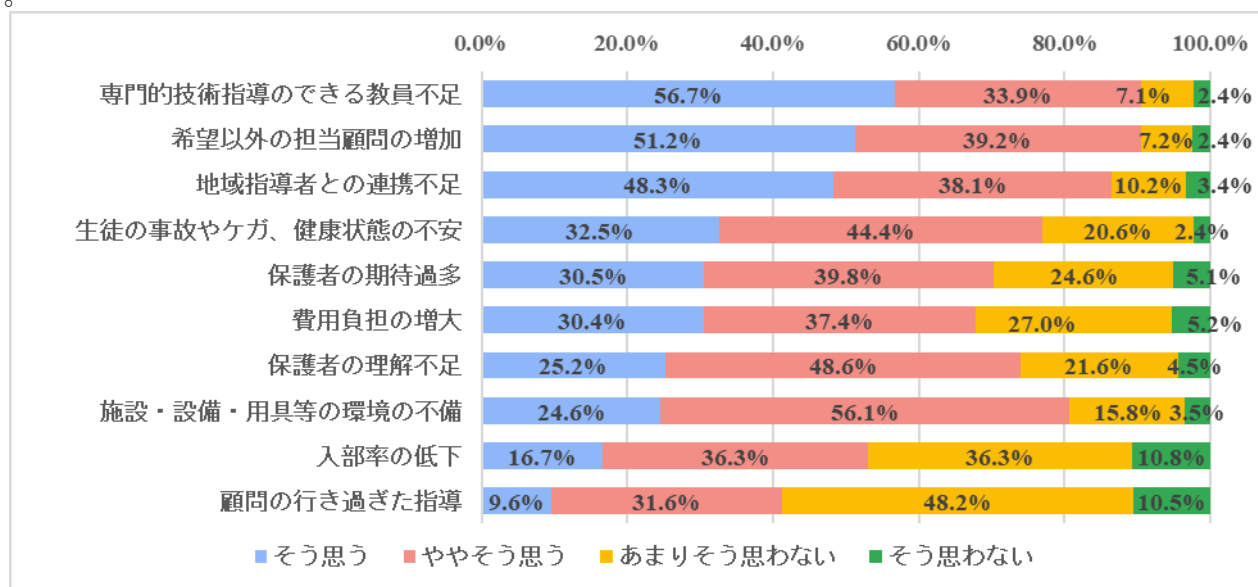


図 42. 部活動の問題点

(6) 部活動の地域移行（展開）への賛否

休日の地域移行（展開）には 94.2%が賛成しており、平日についても 89.2%が支持する結果となった。一方で、反対は休日が 5.9%、平日が 10.8%であり、平日の地域移行への反対は休日の約 2 倍に上ることが明らかとなった。

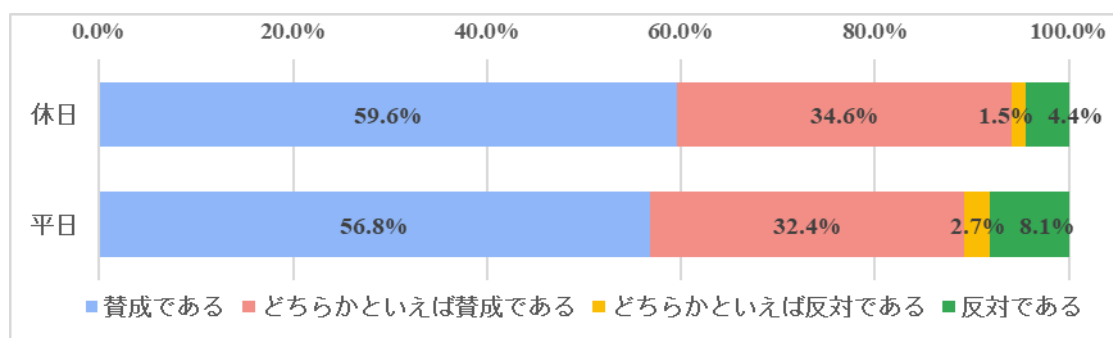


図 43. 部活動の地域移行への賛否（休日）

(7) 地域移行（展開）への参画意向

地域移行（展開）に参画する意向の教員はわずか 8%であった。現時点では分からないと態度を保留している教員は 27%であり、地域指導者としての参画を促進するため、兼職兼業に関する制度の周知を図るなどの働きかけが必要である。

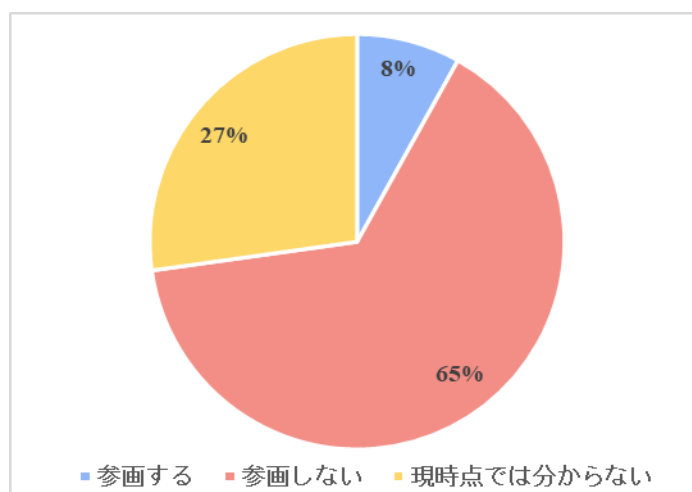


図 44. 地域移行への参画意向

(8) 地域クラブ活動における指導希望種目

教員が地域クラブ活動で指導を希望する種目は、「バスケットボール（n=3）」が最も多く、次いで「ソフトボール（n=2）」、「バレーボール（n=2）」であった。

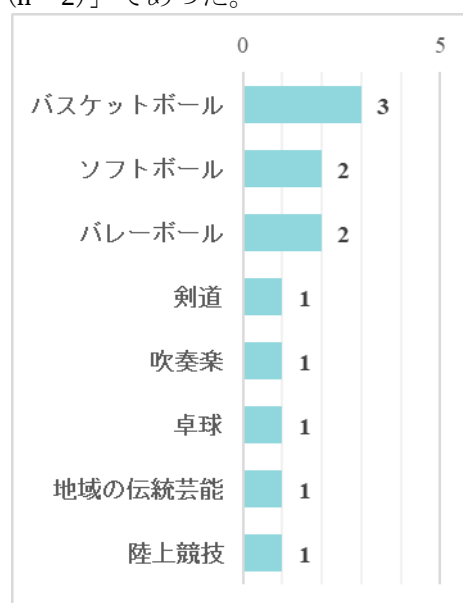


図 45. 地域クラブ活動における指導希望種目

(9) 地域クラブの運営の重要度

地域クラブの運営における重要度が高い項目は「団体内ではメンバー間で情報共有が徹底されている（94.1%）」、「団体の会計処理が適切に行われている（91.2%）」であった。一方で、重要度が低かった項目は「運営スタッフが充実している（73.5%）」、「学校との連携が図られている（76.2%）」であった。メンバー間の情報共有や経費の支払いといった組織のガバナンスに関する項目を重要視していることが分かった。

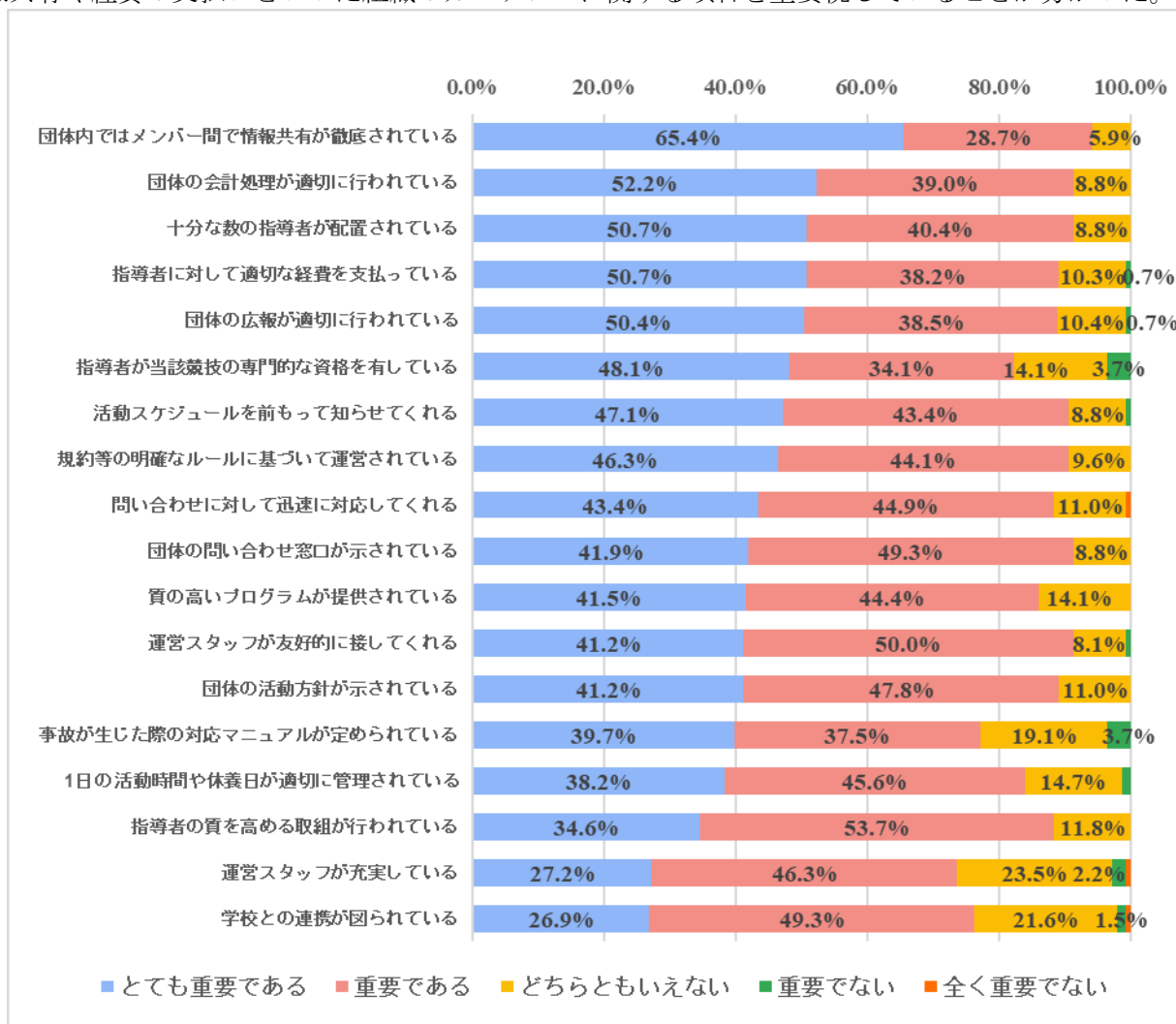


図 46. 地域クラブ活動の運営の重要度（教員）